

1995年度

# 免許課程シラバス

獨協大学

---

---

# 免許課程シラバス目次

[ ] 内は92年度以前入学者の科目名

## 教職に関する科目

教育原論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[教育原論]	鳥谷部 志乃恵	1
		川 村 肇	3
教職心理学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[教職のための心理学]	瀧 本 孝 雄	5
		鈴 木 乙 史	7
		横 田 雅 弘	9
生涯教育論	[生涯教育論]	渋谷 英 章	11
学校教育論	[学校教育論]	川 村 肇	13
教育法規	[教育法規]	渋谷 英 章	15
教育方法学	[教育方法の理論と応用]	町 田 喜 義	17
		針 生 悦 子	19
ドイツ語科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[ドイツ語科教育法]	糸 井 透	21
英語科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[英語科教育法]	清 水 由理子	23
		三 好 健	25
		J. J. ダゲン	27
		秋 山 武 夫	29
フランス語科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[フランス語科教育法]	井 上 たか子	31
社会科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[社会科教育法]	小 川 一 郎	33
地理・歴史科教育法	[地理・歴史科教育法]	犬 井 正	35
		古 川 堅 治	37
公民科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[公民科教育法]	小 川 一 郎	39
道徳教育の研究	[道徳教育の研究]	鳥谷部 志乃恵	41
特別活動	[特別活動]	川 村 肇	43
		佐 藤 利 明	45
		藤 井 光 男	47
生徒指導法	[生徒指導法]	川 村 肇	49
		藤 井 光 男	51
		福 島 哲 男	53
教育実習Ⅰ (教育実習の事前・事後指導)	[教育実習Ⅰ] (教育実習の事前・事後指導)	小 川 一 郎	55
		佐 藤 利 明	57
		藤 井 光 男	59

---

教育思想史	[教育思想史]	川村 隆	61
教職演習	[教職演習]	鳥谷部 志乃恵	63

## 教科に関する科目

日本史概説	[日本史概説]	新井 孝重	65
外国史概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[東洋史概説]	熊谷 哲也	67
外国史概説Ⅲ（前期）・Ⅳ（後期）	[西洋史概説]	赤井 彰	69
地理学概説	[地理学概説]	山本 充	71
地誌学概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	[地誌学概説]	山本 充	73
地理学調査法	[地理学調査法]	犬井 正	75
		山本 正三	
社会学概論	[社会学概論]	有吉 広介	77
哲学概説	[哲学概説]	鹿毛 誠一	79
倫理学概論	[倫理学概論]	中島 文夫	81
宗教学概論	[宗教学概論]	鈴木 康治	83

## 司書・司書教諭課程シラバス目次

図書館通論	三浦 逸雄	85
図書館資料論	海野 敏	87
参考調査論	小田 光宏	89
資料目録法	三井 幸子	91
資料分類法	徳村 泰弘	93
図書館活動論	三浦 逸雄	95
青少年の読書と資料	宮部 頼子	97
図書及び図書館史	海野 敏	99
図書館の施設と設備	宮部 頼子	101
資料整理法特論	小田 光宏	103
情報管理	小田 光宏	105
社会教育（教職科目「生涯教育論」と合併）	渋谷 英章	11
人文科学及び社会科学の書誌解題（専門科目振替：「免許課程の手引」参照）		
自然科学と技術の書誌解題（専門科目振替：「免許課程の手引」参照）		
マスコミュニケーション（専門科目振替：「免許課程の手引」参照）		
学校図書館通論（前期集中授業）	宮部 頼子	107
学校図書館の利用指導（後期集中授業）	宮部 頼子	109

科目名	教育原論Ⅰ・Ⅱ（教育原論）	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	---------------	------	---------

講義の目標	<p>ドイツの教育学者のヘルバルトは、「毎日の忙しさや、さまざまな問題、事柄への対応に振り回される日常の諸経験が、そこにいる人間の視野をはなはだしくせばめてしまう教育の実践界ほど、普遍的な理念を踏まえた哲学的思慮が必要なところはない」と述べている。大学における教員養成の役割は、教師を志望する者に実践への基礎を培うことにある。ヘルバルトの指摘を念頭に置いて、哲学的思慮に基づいた教育実践の在り方を、教育目的—教育内容—教育方法に考察を加えながら明らかにしていきたい。</p>		
講義概要	<p>前期教育原論（Ⅰ）は、教育の本質や目的についての理解を深めることを目標とする。(1)人間の生成、人間の生成と遺伝・素質の関係、人間の生成と環境との関係を考察し、教育の必然性と可能性について考える。(2)教育における目的の意義、社会が求める教育目的、法規や行政文書における教育目的などを考察し、教育における目的と実践の関係について考える。</p> <p>後期教育原論（Ⅱ）は、教育の本質や目的についての理解を前提として、教育内容や教育方法についての理解を深めることを目的にする。授業とは何かを知るため、教育課程と教授理論について考察する。学校・学級経営と教育方法の関係も明らかにする。</p>		
使用教材	テキスト	「新制教育原理」 名倉英三郎編 八千代出版	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人間はどこまで動物か」 A.ポルトマン著 岩波新書</li> <li>・「教育と人間の省察」 ランゲフェルド著 玉川大学出版部</li> <li>・「狼に育てられた子」 J.A.L.シング著 福村出版</li> <li>・「教育の過程」 J.S.ブルーナー著 岩波書店</li> <li>・「学習指導論」 吉田昇著 学文社</li> </ul>	
評価方法	定期試験によって評価する。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前期 (I)

週	主 要 テ ー マ
1	I-(1)人間の基本的な性質・被造物性について 「被投性」(Geworfenheit)と「有限性」(finitude)について考える。
2	(2)子どもと親(大人)について 人間の子どもの本質である「依存性」(dependence)と親の本質「応答性」(response-ability)の本来的な関係について考える。
3	(3)人生のライフサイクルの中での人間形成について 「老人」と「子ども」の関係、「老い」や「死」と「生きる」こととの関係を通して教育の本質を考える。
4	(4)遺伝(素質)説における教育について J.J. ルソーやフレーベル等の自然主義的教育思想と自然主義的遺伝決定論や心理学研究の影響について考える。
5	(5)環境(経験)説における教育について J. ユメニウスやロック、オウエンの教育思想と野生児研究の影響について考える。
6	(6)遺伝と環境の相互の関係について シュテルンやピアジェの理論と現代の遺伝学の影響について考える。個性や能力という概念についての吟味をする。
7	(7)社会生活と人間形成について ナトルプ、デューイ、E. クリーク等の教育思想を通して無意図的な教育と意図的教育の関係について考える。
8	II-(1)教育の理想と理念について 教育における目的論の位置、教育目的の歴史的多様性、教育目的の可変性と不変性について考える。
9	(2)わが国の教育目的について 教育目的の近代化や教育法規にみられる教育目的について考える。
10	(3)教育目的の諸要因(社会、子供、文化)について 社会観や子供観、文化観の相違によって具体化される目的に違いが生じる点と、三つの要因の論理的関係について考える。
11	(4)学校における教育の目的・目標の設定について 目標設定のための一般的な手続きと目標設定に係る基本的な留意事項について。
12	(5)目的意識に基づく実践としての教育行為について 教育行為の原則と教育を行う立場について考える。
備考	

### 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	III-(1)教育内容の意味について 教育内容の二義性、教育内容の存在理由、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラムについて。
2	(2)教育内容の選択について 教育内容の選択の基準について、教材としての文化遺産と伝統について、教材としての経験について考える。
3	(3)教育内容の組織について 教科カリキュラム、相関カリキュラム、学科中心カリキュラム、コア・カリキュラム等、各種カリキュラムについて考える。
4	(4)わが国の教育課程 学習指導要領改訂の流れを中心に戦後の教育課程について考える。
5	(5)教育課程の展開 教育課程の意味、教育課程の編成とその基準について、各教科・道徳・特別活動について、単元について考える。
6	IV-(1)教育方法とは何かについて 教育観と教育方法について、教育技術とは何かについて、教育内容と教育方法の関係について考える。
7	(2)学習指導等の原理について 学習指導の意義について、学習指導の原理(直観の原理、興味の原理、学習の原理)について考える。
8	(3)学習活動の形態と過程について 学習指導の形態(系統学習、問題解決学習、発見学習、範例方式、完全習得学習等)についてとその学習過程について考える。
9	(4)学習指導理論の歴史 ソクラテスの産婆術からブルーナーの理論に至るまで、代表的なものを紹介する。
10	(5)学習集団の組織と運営について 学習集団としての学級の組織と運営(一斉学習、小集団学習、個別学習)について考える。
11	(6)学級観の変遷と教育方法の改革について 教授の単位としての学級から教育の単位としての学級への変革について、学級集団の教育機能について考える。
12	(7)情報化社会と教育方法 情報化社会と学校教育の変化、教育情報メディアの特質等について考える。
備考	

科目名	教育原論 I・II (教育原論)	担当者名	川村 肇
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>Iにおいては、教育する際に根元的に問われることになる人間観を考察し、その上に立って、教育基本法にもとずいた教育への理解を深める。IIにおいては、先ごろ批准された「児童の権利条約」を教育の実際の中で実現する上で必要な考え方や態度を身につけることを目標とする。</p>	
講義概要	<p>Iにおいては、障害をもって誕生した赤ちゃんへの、両親と病院の対応を具体的事例について検討する。その他、ビデオ等を利用して、多くの事例を見てゆくこととしたい。</p> <p>IIにおいては、「児童の権利条約」の条文に即した理解を深めるとともに、教育の現場をとりまいている、日本社会の抱えている様々な病理に考察のメスを入れたい。</p> <p>参加人数によっては、全体での討論、感想文等の方法もとり入れたい。</p>	
使用教材	テキスト	ポケット版『子どもの権利ノート』(子どもの権利条約をすすめる会発行)
	参考文献	
評価方法	試験	
受講者に対する要望など		

前期 (I)

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	「となりのトトロ」に見る教育——教育を考える糸口として——
2	人間はどこまで動物か
3	差別と教育——普遍的価値について
4	人間観と教育観 (1)
5	人間観と教育観 (2)
6	人間観と教育観 (3)
7	人間観と教育観 (4)
8	人間観と教育観 (5)
9	日本国憲法と教育基本法 (1)
10	日本国憲法と教育基本法 (2)
11	日本国憲法と教育基本法 (3)
12	試験
備考	

後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	児童の権利条約 (1) ——世界と日本の子どもたち——
2	児童の権利条約 (2) ——子どもの権利をめぐる歴史——
3	児童の権利条約 (3) ——子どもの権利と子どもの人権——
4	児童の権利条約 (4) ——条文と実際 (1) ——
5	児童の権利条約 (5) ——条文と実際 (2) ——
6	児童の権利条約 (6) ——条約の実現をめぐる——
7	教育をとりまく日本社会 (1) ——福祉——
8	教育をとりまく日本社会 (2) ——教育政策——
9	教育をとりまく日本社会 (3) ——政治と経済と教育——
10	教育をとりまく日本社会 (4) ——民主主義——
11	児童の権利条約と日本社会——まとめ——
12	試験
備考	

科目名	教職心理学Ⅰ・Ⅱ（教職のための心理学）	担当者名	瀧本孝雄
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>〔教職心理学Ⅰ〕では教職に必要な心理学的な基本的問題について講義する。前半では主に教育心理学およびカウンセリングと心理テストについて、後半では主に青年心理学の領域について考察する。</p> <p>〔教職心理学Ⅱ〕では、〔教職心理学Ⅰ〕をふまえたうえで、その応用的な側面について考察する。さらに、カウンセリングの各種のトレーニングを実施し人間理解、生徒理解を深める。</p>		
講義概要	<p>〔教職心理学Ⅰ〕</p> <p>①教育心理学の対象と方法、②カウンセリングの目的と方法、③心理テストの理論と実施、④学習、知能について、⑤記憶、思考について、⑥教育の評価と測定、⑦教師の資質とリーダーシップ、⑧青年心理学の対象と方法、⑨青年期の意義と特徴などについて講義する。</p> <p>〔教職心理学Ⅱ〕</p> <p>①現代青年の特徴、②青少年国際比較調査結果の概要、③現代青年の悩み、④青年期の人間関係、⑤生徒の問題行動、⑥生徒の精神衛生、⑦性差心理学などについて講義する。またグループ討議やカウンセリングの実習なども実施する。</p>		
使用教材	テキスト	カウンセリングと心理テスト 林潔他著 おうふう（株）	
	参考文献		
評価方法	評価方法は、講義に関してのレポートとする。出席は毎回とる。		
受講者に対する要望など	<p>〔教職のための心理学〕は通年授業である。〔教職心理学Ⅰ〕は前期授業で必修であり、〔教職心理学Ⅱ〕は後期授業で選択であるが、〔教職心理学Ⅱ〕も受講することが好ましい。（教師志望者大歓迎）</p>		



## 年 間 講 義 予 定

### 前期 (I)

週	主 要 テ ー マ
1	教育心理学の対象と方法 教育心理学とは何か、教育心理学で扱う問題について講義する。
2	カウンセリングと生徒相談の目的 教育におけるカウンセリングと生徒相談の意義について考察する。
3	カウンセリングの方法 カウンセリングの方法について具体的に講義する。
4	クライアント中心のカウンセリング クライアント中心のカウンセリングの目的と方法について講義し、基本的な実習を行う。
5	心理テストの理論 知能テスト、性格テストの理論と種類について講義する。
6	心理テストの実施 性格テストを実際に実施し、自己理解をはかる。
7	学習、知能について 教育における学習、知能の意義とその役割について講義する。
8	記憶、思考について 教育における記憶、思考についてその意義と役割について講義する。
9	教育の評価と測定 教育評価の意義とその問題点を具体的事例をもとに講義する。
10	教師の資質とリーダーシップ 望ましい教師のあり方、教師の資質について検討する。
11	青年心理学の対象と方法 青年心理学とは何か、青年心理学で扱う問題について講義する。
12	青年期の意義と特徴 人生サイクルの中での青年期の意義とその特徴について講義する。
備考	

### 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	現代青年の特徴 (1) 現代青年が以前の青年と比べてどのような特徴があるかを考察する。
2	現代青年の特徴 (2) 同上
3	青少年国際比較調査結果 世界 11ヶ国の青年の中で日本青年の特徴について講義する。
4	現代青年の悩み 現代青年の悩みを構造的に理解する。
5	青年期の間人間関係 青年期の友人関係、親子関係、恋愛、性の諸問題について検討する。
6	生徒の問題行動 非行、いじめ、登校拒否など現在学校で問題になっている行動を講義する。
7	生徒の精神衛生 神経症、精神病、自殺などについて考察する。
8	性差心理学 (1) 男性と女性の身体的、精神的な差異について考察する。
9	性差心理学 (2) 同上
10	グループ討議 現在の中学、高校での諸問題についてグループに分かれて討議する。
11	カウンセリング実習 (1) カウンセリングの基本的実習を行う。
12	カウンセリング実習 (2) カウンセリングの各種の技法についての実習を行う。
備考	

科目名	教職心理学Ⅰ・Ⅱ（教職のための心理学）	担当者名	鈴木乙史
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>教職に就く者として、児童・生徒の理解は欠かすことができない。教職心理学では、児童・生徒の心理的な発達のプロセス、学習のメカニズム、知能の構造、教授者—学習者間の関係についての基本的知識と、個々の生徒に対する生徒指導について焦点をあてて、論じていく。</p>		
講義概要	<p>前期は、発達心理学、学習心理学、教育心理学の知見を紹介し、児童期・青年期の心理的特徴や発達課題について講義形式ですすめる。</p> <p>後期は児童・青年の臨床心理学的側面に焦点をあて、カウンセリング等の実習を含めながら、ゼミ形式ですすめていく。</p>		
使用教材	テキスト	林・瀧本・鈴木、「カウンセリングと心理テスト」 ブレーン出版	
	参考文献	その時々において紹介する。	
評価方法	前期は出席および筆記式テスト。後期は、出席およびその時々を与える課題の達成度。		
受講者に対する要望など	前期は特になし。後期は、「カウンセリング」等を用いた生徒指導法や登校拒否・いじめ等の問題に関心のある学生が望ましい。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前期 (I)

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション。第1回目の授業として、教職心理学Ⅰでは、どのようなテーマを講義していくか、その概略を述べ、Ⅱとの関連を説明する。
2	発達①：愛着と基本的信頼感の形成についてのべる。
3	発達②：野生児研究、マターナル・ディプリベーション研究から、人間的環境の重要性について論じる。
4	発達③：自己コントロールとしての自律性について述べ、実習として自己主張テストを実施し、結果を検討する。
5	発達④：自己意識と自我同一性について論じ、20 答法を実施し、結果を検討する。
6	学習①：無学習性行動と学習性行動のメカニズムを比較し、学習のメカニズムとプロセスについて考える。
7	学習②：条件づけやモデリングのプロセスについて理解を深め、あわせて内発的動機づけについても検討する。
8	知能①：知能と知能テストの違い、知能の構造について論ずる。
9	知能②：一般知能説、多因子説、新しい考えを比較し検討する。
10	知能③：ピアジェの発達論を論じ、量的側面だけではなく、質的変換の側面にも理解を深める。
11	教授—学習過程論について論ずる。特に、ATI 研究から、処遇の重要性についての理解を深める。
12	日米共同研究を基に、アメリカの学生と日本の学生の共通性と差異点について検討する。
備考	

### 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション。教職心理学Ⅱでは、どのようなテーマをどのような方法ですすめていくかを述べる。同時に受講生各自が満たすべき課題を与える。
2	精神障害の基礎①。児童期・青年期に好発する精神障害について。
3	精神障害の基礎②。神経症のタイプとメカニズムについて。
4	自己理解のために①。他者を理解するためには、自己の理解が必要である。性格テストを実施し、内容を相互に検討する。
5	自己理解のために②。課題①「日常会話の意識化」を提出させ、その内容について相互に検討する。
6	パーソナル・コミュニケーションの特質について論ずる。
7	カウンセリングの基礎①。紙上応答訓練法を説明し、小グループで応答を相互に検討する。
8	カウンセリングの基礎②。紙上応答訓練法を実施し、小グループで応答を相互に検討する。
9	カウンセリングの基礎③。課題②「ロール・プレイ」を提出させ、その内容について相互に検討する。
10	カウンセリングの基礎④。いくつかのロール・プレイを材料に応答内容を検討する。
11	生徒指導の方法。いくつかのケースについて、その問題をどう考え、どのように対処するかを相互に検討する。
12	まとめ。全体のまとめをおこない、課題③「この講義を通じて考えたこと」の発表をおこなう。
備考	

科目名	教職心理学Ⅰ・Ⅱ（教職のための心理学）	担当者名	横田 雅弘
-----	---------------------	------	-------

講義の目標	<p>① 前期に開講する教職心理学Ⅰでは、実際に教職についてときに役立つ実践的知識ならびに教職試験に必要な知識の概略を身につける。</p> <p>② 後期に開講する教職心理学Ⅱでは、自分を知るということを目標とする。すなわち、教職につく者としての自分のパーソナリティ、考え方、行動の傾向を理解し、その理解の上に、自分がどのような教育者になろうとするのかを考える。</p>		
講義概要	<p>教職心理学Ⅰは講義中心の授業である。しかし、教職についてときに必要な心理学の知識を、このような短期間の授業で網羅することは不可能である。そこで、ここでは主に人間関係にポイントを絞り、子供の社会性の発達、青年の心理の特徴、あるいは学校不適応の問題などを扱う。できるだけ実践的な知識をケースなどを使って講義する。</p> <p>教職心理学Ⅱでは、講義は最小限にとどめ、学生が自己分析にチャレンジする。特に初等・中等教育の教師は子供達と全人格的に交わるのであり、そのときに教師としての自分の強みや弱みを理解していることは大変重要である。授業は、ゲーム、心理テスト、ディスカッション等を中心に展開する。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを配布する。	
	参考文献	教職試験の準備のために、この授業でカバーしきれないところを整理しておく必要がある。たとえば、「教育に生かす心理学」伊藤康児他、北大路書房など。	
評価方法	<p>教職心理学Ⅰは、①授業への出席、②最後の授業時間を用いて行う試験を中心に評価する。</p> <p>教職心理学Ⅱは、①授業への出席、②最後の授業時に提出してもらうレポートを中心に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>① 教職心理学Ⅱの受講者は、教職心理学Ⅰを履修していることが望ましい。</p> <p>② 教職心理学Ⅱは、自己分析という大きな課題にチャレンジする積極性が求められる。ディスカッションにも積極的に参加して頂きたい。</p> <p>③ 教職心理学Ⅰ・Ⅱともにきちんと出席すること。</p>		

## 前期 (I)

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (教職心理学 I・II について)。 発達と教育(1): 発達観と教育、知能の発達と創造性、認知的発達、道徳性の発達。
2	発達と教育(2): 引続き上記のテーマについて学ぶ。
3	人間関係と社会性の発達(1): 親の養育態度と子供のパーソナリティ。
4	人間関係と社会性の発達(2): 学級集団とダイナミクス (友人関係、教師生徒関係、リーダーシップなど)。
5	学習指導と教育評価(1): 学習理論、学習指導法、動機づけ、教育評価。
6	学習指導と教育評価(2): 引続き上記のテーマについて学ぶ。
7	青年期の身体成熟とセクシャリティ: 性的成熟の身体的・心理的側面、性と社会、学校における性とエイズ教育。
8	青年期の心理特性
9	学校不適応と精神衛生(1): 登校拒否、校内暴力、いじめなど。
10	学校不適応と精神衛生(2): カウンセリングの基礎知識。
11	補講
12	前期末テスト
備考	

## 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	自己紹介のセッション
2	自分に気づく(1): 自分の心理テストの結果を交流分析理論を通して解析する。そのための交流分析の基礎を学ぶ。
3	自分に気づく(2): 引続き上記のテーマについて学ぶ。
4	自分に気づく(3): 引続き上記のテーマについて学ぶ。
5	他人と状況に気づく(1): スモール・グループでの演習 (ただし受講者の人数によっては変更する場合有り)
6	他人と状況に気づく(2): 引続き上記のテーマについて学ぶ。
7	ゲームを用いて、異文化状況における自分を理解する。
8	教師としての自分の強みと弱みを分析する(1)
9	教師としての自分の強みと弱みを分析する(2)
10	教師としての自分の強みと弱みを分析する(3)
11	補講
12	まとめ。レポート提出。
備考	

科目名	生涯教育論（社会教育）	担当者名	波谷英章
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>「生涯学習社会」は、現在ではあたりまえの言葉となっているが、ともすれば「学校を終えた人々に十分な学習機会が提供されれば生涯学習社会は完成する」という表面的で一面的な理解にとどまることが多い。この授業では、学校教育と社会教育をともに変革して両者の統合を図ることこそが、生涯学習社会の基本的な課題であるという視点から、生涯学習社会における学校教育と社会教育のあり方について追求する。</p>		
講義概要	<p>まず、現在「生涯学習社会」が求められる背景と生涯教育の理念を検討する。そのうえで、生涯学習社会における学校のあり方を現在の日本の教育改革の動向に基づいて考察し、次に生涯各期の社会教育の課題を明確にする。さらに、諸外国の事例との比較を通して、日本の生涯教育の現状と課題を分析する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真野宮雄編『生涯学習体系論』東京書籍</li> <li>・日本生涯教育学会編『生涯学習事典』東京書籍</li> <li>・倉内史郎・碓井正久編著『新社会教育』学文社</li> <li>・その他は授業中に指示する。</li> </ul>	
評価方法	<p>評価は、試験の成績をもとに出席状況を加味して行う。「何を学んだか」という知識の量よりも、「いかに学ぶか」という学び方が問われるべきである生涯教育の原則から、試験にはこの原則にふさわしい問題を課し、ノートや各種の文献などの持参を認める。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業への出席が必要条件であるが、出席してもただ単に板書を写すだけでは不十分である。講義内容を十分に理解するように努め、さらにその内容について自分自身で考えることが重要である。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	なぜ、いま「生涯学習社会」か
2	生涯教育の理念とその社会的背景 (1)——ラングランの生涯教育論
3	生涯教育の理念とその社会的背景 (1)——「脱学校論」の学校批判
4	生涯教育と学校 (1)——「新しい学力観」、「学校週5日制」と生涯教育
5	生涯教育と学校 (2)——学社連携、高等学校改革と生涯教育
6	生涯教育と学校 (3)——大学改革と生涯教育
7	生涯教育と社会教育 (1)——幼児期、少年期の社会教育
8	生涯教育と社会教育 (2)——青年期、成人期の社会教育
9	生涯教育と社会教育 (3)——高齢期の社会教育、女性の生涯教育
10	諸外国の生涯教育 (1)——リカレント教育、有給教育休暇制度
11	諸外国の生涯教育 (2)——ノンフォーマル教育、識字教育
12	試験
備考	

科目名	学校教育論（後期）	担当者名	川村 肇
-----	-----------	------	------

講義の目標	現代の教育の場として最も大きな位置を占めている学校教育について、学校の歴史、学校をめぐる法規、学校と教師をめぐる展開されてきた様々な問題を考察することを通して、学校そのものを相対化してみる視点を養い、学校教育の改善の方途を探る。	
講義概要	主として日本の学校と、学校と教師をめぐる展開されてきた諸問題を歴史的に考察する。	
使用教材	テキスト	配布プリント類。
	参考文献	
評価方法	試験	
受講者に対する要望など		



年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	日本の学校の歴史 (1) ——前近代——
2	日本の学校の歴史 (2) ——「学制」と教育勅語——
3	日本の学校の歴史 (3) ——大正民本主義の教育とファシズム下の教育——
4	日本の学校の歴史 (4) ——戦後の学校——
5	戦後の学校と教師をめぐる諸問題 (1) ——ふたつの教育委員会法——
6	戦後の学校と教師をめぐる諸問題 (2) ——教師労働者論と聖職論——
7	戦後の学校と教師をめぐる諸問題 (3) ——「学テ」と「勤評」——
8	戦後の学校と教師をめぐる諸問題 (4) ——「日の丸・君が代」——
9	戦後の学校と教師をめぐる諸問題 (5) ——学校給食をめぐる——
10	学校廃絶論と学校改善論
11	学校選択と学校参加
12	試験
備考	

科目名	教育法規	担当者名	渋谷英章
-----	------	------	------

講義の目標	<p>教育法規の意義とその構造を理解し、教員としての職務の遂行にあたって、必要に応じて法的な裏付けとなる規定を自ら確認できるような知識と能力を身につけさせる。</p>		
講義概要	<p>はじめに、受講生がこれまでの学校生活で体験した事象がいかなる法的規定にもとづいていたのかを具体的に示し、教育法規を学ぶ意義を示す。その後で、憲法、教育基本法、学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、教育公務員特例法などの法規定を検討することによって、教育法体系の構造と教育法の特殊性を具体的に検証していく。いかなる法規定が定められているかということよりも、なぜそのような法規定が存在するのかという問題に重点を置き、単なる条文の解釈にとどまらず、教育学の理論的背景を確認しつつ各法律の条文を考察していく。</p>		
使用教材	テキスト	<p>教育制度研究会編『要説 教育制度（全訂版）』学術図書出版社</p>	
	参考文献	<p>『教育小六法』学陽書房</p>	
評価方法	<p>評価は、試験の成績をもとに出席状況を加味して行う。試験では、条文を暗記しているかどうかではなく、法規定や条文の意味を正しく理解しているかを問うため、教科書、ノート、教育六法を持参して、それらを参照しながら回答することになる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業への出席が必要条件であるが、出席してもただ単に板書を写すだけでは不十分である。講義内容を十分に理解するように努め、さらにその内容について自分自身で考えることが重要である。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	身近な教育事象の裏付けとして、どのように法的な規定が定められているのかを示し、教育法規を学ぶ意義について考える。
2	教育法の法体系およびその原則について考察する。
3	憲法の教育条項および教育基本法による規定について考察する。
4	教育基本法の規定とその規定の根源にある公教育原理について考察する。
5	学校教育法について考察する。
6	学校教育法について考察する。
7	地方教育行政の組織及び運営に関する法律について考察する。
8	地方教育行政の組織及び運営に関する法律について考察する。
9	教育公務員特例法について考察する。
10	社会教育法について考察する。
11	現在の教育問題と教育法について考察する。
12	試験
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	(前) (後) 教育方法学 (教育方法の理論と応用)	担当者名	町田 喜義
-----	----------------------------	------	-------

講義の目標	<p>各種メディアの驚異的な発達により我々を取りまくコミュニケーション状況は大きく変化している。それに伴い教育もまたいろいろな意味で激動期を迎えている。本講義は、「教育の方法と技術」をコミュニケーションの視点から再検討する事を目的とする。</p>		
講義概要	<p>人間の一生は、(1)日常の様々な直接経験、(2)本、TV、映画などによる間接経験、そして(3)言語による理性的経験を通しての成長過程である。本講義では、先ずこの三つの経験システムをどの様に教育過程で生かすかを考えてみよう。第二に、「教育コミュニケーション」という概念を導入して、『教育の技術と方法』を通じて『教師の役割』を再検討してみよう。諸君の多くは近い将来、生徒を対象に先の過程の一端を担う事になろう。生徒たちは諸君(先生)を通して多くの事柄を学んで行くだろうが、「どのように教えるか」は、「何を教えるか」と同様に重要な教育の課題である。これには「諸君が教師として何を学ぶ必要があるか」、「学んだ結果として諸君がどう変わるか」が関わっているからである。</p>		
使用教材	テキスト	プリント、ビデオ、その他を使用する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋山隆四郎・岩崎三郎編「改訂 視聴覚教育」樹村房 1991</li> <li>・大内茂男・高桑康雄・中野照海編「視聴覚教育の理論と研究」日本放送教育協会 1979</li> <li>・佐伯 胖『わかり方と根源』1990 小学館</li> <li>・吉田章宏『学ぶと教える—授業の現象学への道—』海鳴社 1987</li> <li>・稲垣忠彦・柴田義松・吉田章宏『教育の原理Ⅱ—教師の仕事—』東大出版 1985</li> <li>・多田俊文編『教育の方法と技術』学芸図書 1994</li> <li>・若林繁太『教育よ!』共同出版 昭和59年</li> <li>・その他(別紙配布する)</li> </ul>	
評価方法	<p>           期末試験 : 45%            課題レポート(1) : 20%                              (2) : 20%            出席回数 : 15% (欠席1回につき2点減—やむを得ず欠席をした場合は証明書を提出する事、遅刻は1点減)         </p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ：講義概要説明「学習者の知的、情意的、身体的発達促進」、その他
2	授業とは？ 教えることとは？ ビデオ『若き教師たちへ』 課題レポート：「林 竹二について」
3	意見交換：『若き教師たちへ』を観て 講義：教育方法学の全体像
4	講義：視聴覚コミュニケーション「メディアによる教育の変遷・課題」
5	講義：教育とコミュニケーション・モデル「教師、生徒、学習情報、メディア、テスト、学習効果、評価」
6	教育メディアの利用と実践 ビデオ『超高層ビルはなぜ倒れないのか』 課題レポート：「教師とメディア」
7	講義：E. デールの理論『経験の円錐』とニュー・メディア 意見交換：『超高層ビルはなぜ倒れないのか』を観て
8	講義：授業過程における教育メディアの選択 授業とメディア：特性・処遇・課題交互作用 (TTTI)
9	講義：教育における指導と改善「授業設計」
10	講義：学習と指導の評価「評価と測定」
11	テストの理論 ビデオ『計れる学力と計れない学力』 講義：テスト (testing)
12	エピローグ：意見交換『なぜ君は教師をめざすのか』
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ：講義概要説明「学習者の知的、情意的、身体的発達促進」、その他
2	授業とは？ 教えることとは？ ビデオ『若き教師たちへ』 課題レポート：「林 竹二について」
3	意見交換：『若き教師たちへ』を観て 講義：教育方法学の全体像
4	講義：視聴覚コミュニケーション「メディアによる教育の変遷・課題」
5	講義：教育とコミュニケーション・モデル「教師、生徒、学習情報、メディア、テスト、学習効果、評価」
6	教育メディアの利用と実践 ビデオ『超高層ビルはなぜ倒れないのか』 課題レポート：「教師とメディア」
7	講義：E. デールの理論『経験の円錐』とニュー・メディア 意見交換：『超高層ビルはなぜ倒れないのか』を観て
8	講義：授業過程における教育メディアの選択 授業とメディア：特性・処遇・課題交互作用 (TTTI)
9	講義：教育における指導と改善「授業設計」
10	講義：学習と指導の評価「評価と測定」
11	テストの理論 ビデオ『計れる学力と計れない学力』 講義：テスト (testing)
12	エピローグ：意見交換『なぜ君は教師をめざすのか』
備考	

科目名	(前)(後)教育方法学 (教育方法の理論と応用)	担当者名	針 生 悦 子
-----	--------------------------	------	---------

講義の目標	<p>人に何かを教えようとするなら、もちろん、教えるべき内容についてはよく知っていなければならない。しかし、教えるべき内容をよりよく教えるためには、それだけでは足りない。学習者の“学びのメカニズム”はどうなっているかを知った上で、それを生かした教授方法を考えなければならないし、一度考えた方法も授業実践の中では改善していく必要がある。本講義は、人間の“学びのメカニズム”をおさえた上で、それを生かした授業づくりをするにはどうしたらよいか、について学ぶことを目標とする。</p>	
講義概要	<p>まずは、人間の“学びのメカニズム”を知るために、動機づけや知識獲得の理論を概観する。その際、これらの理論を生かした教授方法がどのようなものになるかについても（視聴覚機材の授業への取り入れなども含めて）具体的に見ていく。その上で今度は、一旦、考えた教授方法を、授業実践の中で改善していくための、授業研究の方法についても学ぶ。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	<p>単位の認定は、基本的に、授業の最終回に実施する平常試験の結果にもとづく。ただし、平常の授業への参加、授業中しばしば課される小課題の提出も重視する。</p>	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	ビデオで実際の授業を視聴し、自身が“授業”というものを観るとき、どのような視点からそれを評価していたのか、意識化する作業を行う。
2	前回の作業を踏まえて、“教える側”は“学ぶ側”の何について知らなければならないのかを考え、“学びのメカニズム”として学習者のどのような側面にこれから焦点を当てていくかについて絞り込む。
3	動機づけの理論1： 賞罰の効果について
4	動機づけの理論2： ほめ方、叱り方。ことばは学習者に、どのように受け取られ、どのような効果を及ぼしていくのか。
5	動機づけの理論3： 内発的動機づけ。報酬がなくても、学習者の知的好奇心を刺激し、興味（やる気）を引き出すような、情報の提示の仕方について。
6	動機づけの理論4： 知的好奇心を刺激する授業づくり。e.g. 仮説実験授業、ディベート、シミュレーション。
7	知識獲得の理論1： 人間の“記憶”のメカニズム
8	知識獲得の理論2： （知識獲得の理論から見た）わかりやすい教授方法
9	知識獲得の理論3： メディアを取り入れた授業づくり
10	授業研究の方法1： 授業設計と授業評価の方法
11	授業研究の方法2： 教師の熟達化
12	テスト
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ドイツ語科教育法Ⅰ・Ⅱ（ドイツ語科教育法）	担当者名	糸井透
-----	-----------------------	------	-----

講義の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ドイツ語を第一あるいは第二外国語として教える場合に生ずる問題点を検討考察する。</li> <li>② ドイツ語を教える上での基礎的知識を養う。</li> <li>③ ドイツ語の教師としての心構えなどについて検討する。</li> </ul>	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎時間小テストを行い、ドイツ語の基礎力を養成する。</li> <li>② 教授法については、歴史的概観を行い、検討する。</li> <li>③ 後期は模擬授業を行い、教育実習に備える。</li> </ul>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	小テスト及び前期・後期テストによる。	
受講者に対する要望など	出席を重視する。	



## 前期 (I)

## 年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション及びドイツ語基礎知識テスト
2	授業のしくみについて
3	教授法の歴史概観 (その1)
4	同上 (その2)
5	同上 (その3)
6	ビデオによる教授法・検討。
7	教室内 Körpersprache について
8	学習指導要領について
9	教案とは何か
10	教材研究と教案作成
11	学習と評価について
12	教師としての心得等について
備考	

## 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	模擬授業による教授法の研究
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	ドイツ語教授法のまとめ
備考	

科目名	英語科教育法Ⅰ・Ⅱ（英語科教育法）	担当者名	清水 由理子
-----	-------------------	------	--------

講義の目標	<p>将来英語教師となる準備をしている者として、これからの英語教育について考える。そのための手がかりとして、これまで言語教育に携わってきた先達がどのような考え方のもとに言語教育の向上を目指してきたかを学ぶとともに、日本の英語教育の現状を考えると、どのような改善策があるか探っていく。</p>		
講義概要	<p>今年度は旧課程から新課程への移行期にあるので前期〔Ⅰ〕は講義やビデオにより基本的なことを紹介し、後期〔Ⅱ〕は受講者の研究発表をもとに討論を中心に進める。テーマについては講義予定表を参照。</p>		
使用教材	テキスト	特に定めない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩澤利雄他著（1993）『新英語教育の展開』 英潮社 2600 円</li> <li>・伊藤健三他著（1995）『英語の新しい学習指導』 リーベル出版 2678 円</li> <li>・個々のテーマに関する参考書リストは各学期のはじめに配布する。</li> </ul>	
評価方法	<p>〔Ⅰ〕（前期）レポート（教材研究）および期末試験による。 〔Ⅱ〕（後期）平常点、レポート（学外見学）および期末試験による。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前期 (I)

週	主 要 テ ー マ
1	講義内容の説明、レポート課題(教材研究)について 英語教師に望まれること
2	日本における英語教育 (1) 変遷
3	” (2) 現状
4	主要な教授法の特徴 (1) Oral Method, GDM
5	” (2) Oral Approach
6	” (3) Communicative Approach
7	” (4) Others
8	Audio Visual Aids (1)
9	Audio Visual Aids (2) Teaching Plan (1)
10	Teaching Plan (2)
11	Testing and Evaluation
12	まとめ
備考	レポート提出期限は、前期最後の授業時とする。

後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	授業の進め方、レポート課題(学外見学)について 「文法」の指導について
2	研究発表(1) 「文法」の指導について
3	「聞くこと」と「話すこと」の指導について
4	研究発表(2) 「聞くこと」と「話すこと」の指導について
5	「読むこと」の指導について
6	研究発表(3) 「読むこと」の指導について
7	「書くこと」の指導について
8	研究発表(4) 「書くこと」の指導について
9	研究発表(5) 模擬実習
10	研究発表(6) ”
11	研究発表(7) ”
12	研究発表(8) ”
備考	レポートの提出期限は、1996年1月最後の授業時とする。

科目名	英語科教育法Ⅰ・Ⅱ（英語科教育法）	担当者名	三好 健
-----	-------------------	------	------

講義の目標	一言でいえば、立派な英語教員となってもらうための授業である。立派な英語教員となるための必要最少限度の知識と心構えについて述べたい。とくに英語教育を、単なる技術教育としてでなく、人間教育の観点から考察することを強調し、教育者としての英語教員像を理解してもらうのが、最大の目標である。		
講義概要	<p>前期では、英語教育の意義から始めて、英語教育の歴史や各種の教授法を概観し、英語教育の目的を論じ、なお教室における学校文法の扱い方と指導案の書き方にも触れる。</p> <p>後期は、高校用英語読本を使って、受講生全員に教材研究を兼ねた授業の実演をやってもらおう。</p>		
使用教材	テキスト	後期に高校用英語読本を使う。	
	参考文献	随時授業中に説明する。	
評価方法	前期は出席状況とレポートと定期試験により、後期は授業の演習とレポートと定期試験により評価する。		
受講者に対する要望など	真剣に英語教員になる意志をもった諸君に受講してもらいたい。遅刻・欠席を趣味とする学生はお引きとり願うことはもちろんである。なお受講希望者は、第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前期 (I)

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション——今後の講義予定を説明し、英語教育の意味を考えてもらう。受講希望者に名前を届けてもらって名簿を作製する。
2	[外国における語学教育の歴史と各種教授法] その1——中世 (Grammar-Translation Method) からルネサンス。
3	[ 同 上 ] その2——ルネサンスから19世紀。
4	[ 同 上 ] その3——19世紀以後の各種教授法。
5	[日本の英語教育の歴史] その1——幕末時代 (蘭学から英学へ)。
6	[ 同 上 ] その2——明治時代。
7	[ 同 上 ] その3——大正から昭和へ。
8	[ 同 上 ] その4——戦後の昭和から現代へ。
9	[英語教育の目的] その1——外国語を学ぶ意義 (実用目的と教養目的)。
10	[ 同 上 ] その2——英語学習の意義 (英語の重要性は国際性にあるのか?)。
11	[学校文法の扱い方と教育指導案の書き方]——実地における学校文法の役割を説明し、指導案の実例を示して書き方を教える。
12	
備考	

### 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション——今後の授業の進め方を説明し、学生による授業演習の意義と目標を述べると共に、演習のしかたを具体的に例示する。
2	[学生による授業演習とその講評]——学生一人ひとりに演習をやると同時に指導案を提出してもらう。
3	[ 同 上 (その2)]
4	[ 同 上 (その3)]
5	[ 同 上 (その4)]
6	[ 同 上 (その5)]
7	[ 同 上 (その6)]
8	[ 同 上 (その7)]
9	[ 同 上 (その8)]
10	[ 同 上 (その9)]
11	[講義のまとめ]——授業演習の総評を行ったのち、英語教員の理想像を考察する。
12	
備考	

科目名	英語科教育法 I・II (英語科教育法)	担当者名	J. J. ダゲン
-----	----------------------	------	-----------

講義の目標	<p>The purpose of this course is to not just introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach), but also to establish a basis of understanding of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based, and upon which the student will be able to build and develop a coherent plan of instruction.</p>		
講義概要	<p>In this course, we shall spend most of first term in reading, lecture, and discussion of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based. The second term will be devoted to student in-class practice teaching based on the material covered in the first term, and incorporating practical teaching techniques that will be covered in reading and lecture.</p>		
使用教材	テキスト	<p>Hubbard, P. et. al. <i>A Training Course for TEFL</i>. Oxford University Press. Underwood, M. <i>Effective Class Management</i>. Longman.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>Grades will be assessed based on in-class participation (and therefore attendance), assignments, presentations and a final paper.</p>		
受講者に対する要望など			

## 前期 (I)

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	Course description and explanation. Assignment.
2	Theme : <i>The role of the teacher</i> . Discussion. Longman text pp.7~18
3	Theme : <i>The influence of the teaching situation</i> . Lecture. Discussion. Longman text pp.19~24.
4	Theme : <i>The aspect of the classroom</i> . Lecture. Discussion. Longman text pp.25~57.
5	Theme : <i>The relationship of teacher, classroom and situation</i> . Lecture. Discussion. Assignment.
6	Theme : <i>Considering "Why?"—Approach</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.30~38.
7	Theme : <i>Considering "How?"—Traditional Methods</i> . Lecture. Discussion. Handouts.
8	Theme : <i>Considering "How?"—New Methods</i> . Lecture. Discussion. Handouts. Oxford text pp.241~253.
9	Theme : <i>Considering "What?"—Technique</i> . Lecture. Discussion.
10	Theme : <i>Planning a Syllabus</i> . Lecture. Discussion. Handouts. Longman text pp.58~79.
11	Theme : <i>Planning a Syllabus</i> . Lecture. Discussion. Assignment.
12	First term summary & review. Assessment.
備考	

## 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	Second term course description and set-up. Review of first term material.
2	Theme : <i>Traditional Teaching Techniques</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.3~30.
3	Theme : <i>Teaching Reading &amp; Vocabulary</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.41~61.
4	Theme : <i>Teaching Reading &amp; Vocabulary, part 2</i> . Presentations. Discussion.
5	Theme : <i>Teaching Writing &amp; Composition</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.61~79.
6	Theme : <i>Teaching Writing &amp; Composition, part 2</i> . Presentations. Discussion.
7	Theme : <i>Teaching Listening</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.79~95.
8	Theme : <i>Teaching Listening, part 2</i> . Presentations. Discussion.
9	Theme : <i>Teaching Oral Communication</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.198~205.
10	Theme : <i>Teaching Oral Communication, part 2</i> . Presentations. Discussion.
11	Theme : <i>Teaching Oral Communication &amp; Pronunciation</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp.207~239.
12	Second term summary & review.
備考	

科目名	英語科教育法 I. II	担当者名	秋山武夫
-----	--------------	------	------

講義の目標	英語を教えるとはどういうことなのか、英語教師はどうあるべきか、理想の英語教育はどうあるべきかなどを、出来るだけ現場をふまえて考えていきたい。	
講義概要	<p>「英語科教育法 I」では、理論を主として概説し、評価の方法、教案の作り方等を行います。</p> <p>「英語科教育法 II」は、I を授講した人、またはしている人を対象として、実技、つまり実際に授業を行う時間です。教育実習、教員採用試験に役立つ講義にするつもりです。</p> <p>I、II 両方を受講することが望ましい講義です。</p>	
使用教材	テキスト	「英語教育学概論」(金星堂)
	参考文献	その都度指定する。
評価方法	この講座は「職業に関する科目」と言えますので、出席を重視します。2回欠席したら、評価 A は出しません。遅刻 2 回は欠席 1 回とみなします。	
受講者に対する要望など	現代の日本の英語教育界には、若い有能な教師が必要です。鋭意、実力を養い、実際に教員になって、新風を吹きこむ気概がほしい。	



## 後期(Ⅰ)

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	序論。英語教育のあるべき理想について語ります。
2	過去の日本において行なわれていた、さまざまな教育法、歴史を述べます。
3	パーマーの教育法について。
4	パーマーの教育法について。
5	フリースの教育法について。
6	フリースの教育法について。
7	フリース教育法について。
8	外人教師とのチーム授業について。
9	測定と評価。
10	教案の作り方(中学)。
11	教案の作り方(高校)。
12	Videoによる授業の研究。
備考	

## 後期(Ⅱ)

週	主 要 テ ー マ
1	序論。授業の進め方について。
2	Videoによる授業研究。
3	中学の授業実習(中1、中2、中3)。
4	同上。
5	同上。
6	同上。
7	同上。
8	同上。
9	高校の授業実習(高1、高2、高3)。
10	同上。
11	同上。
12	同上。
備考	

科目名	フランス語科教育法Ⅰ・Ⅱ（フランス語科教育法）	担当者名	井上 たか子
-----	-------------------------	------	--------

講義の目標	<p>中学・高校におけるフランス語教育に携わるために不可欠のフランス語能力の養成と、フランス語教授法の理論と実践を目指します。</p> <p>いずれも履修者の積極的な参加を前提としています。例えば、前期はディスカッションの司会、後期はグループ別の模擬授業を通して、皆の前で自分の意見を発表することを習得して欲しいと思います。</p>		
講義概要	<p>前期は、フランス語学習の意義や目的、さまざまな教授法など理論を中心に。後期はSimulation globaleを土台に、授業の具体的な進め方・実践を中心にします。くわしい内容はシラバスを参照して下さい。</p>		
使用教材	テキスト	特になし。適宜プリントを配布します。	
	参考文献	その都度、指示します。	
評価方法	授業への参加度を重視します。他に前・後期各一回のレポート。		
受講者に対する要望など	欠席しないこと。真面目に努力すること。		

## 前期 (I)

## 年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	この科目の概観を紹介する。
2	フランス語の目的 (1) ディスカッション
3	フランス語の目的 (2) 教師によるまとめ
4	教材研究。これまでに会った教科書について、感想を述べあう。分析すべきポイントの発見。
5	教科書分析のための grille 作成。
6	教授法の歴史 (1)
7	教授法の歴史 (2)
8	フランス文化について。フランス語の背景にある <i>comportement</i> の相違について。
9	ビデオを使った授業 (1) 教材の紹介
10	ビデオを使った授業 (2) 学生の希望するテーマに応じたビデオを観る。
11	前回のビデオを授業に利用するとしたら、どういう方法があるかを考える。
12	前期授業のまとめ、補足。
備考	

## 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	Simulation globale について。紹介と位置づけ。
2	Simulation globale。既成の教材の紹介。
3	Simulation globale。初級用教材の作成例の提示。
4	教材の作成。何を教えるか。文法項目の選択。
5	前回にひきつづき、Actes de parole の選択。
6	グループ別に教材を作成。
7	模擬授業。グループ別に発表形式で行う。反省と意見の交換。
8	つづき。
9	つづき。
10	つづき。
11	評価の仕方について。
12	後期授業のまとめ、補足。
備考	

科目名	社会科教育法Ⅰ・Ⅱ（社会科教育法）	担当者名	小川一郎
-----	-------------------	------	------

講義の目標	<p>社会科は、現在、小学校の3年生から中学校の3年生まで実施されている。ここで取り扱うのは、中学校対象の社会科教育法である。社会科を、先ず、戦後出発当初の初期社会科から考察し、その特質を十分把握することを第一の目標とする。第二の目標は、その特質からくる授業方法を創意工夫することができるようにするため、現在の社会科に要請されている課題を理解させるようにする。社会科の目標、内容に対応した方法が工夫できることが大切であり、その習得を最大の目標として講義する。</p>	
講義概要	<p>社会科出発時の初期社会科を先ず考察し、社会科の特質を把握するようにする。その後の社会科の変容を、学習指導要領の変遷を追いながら理解させる。社会科は、公民的資質の育成をねらいとしているが、道德教育との関連も見逃すことのできないことで、この点についても理解させるように講座を進めたい。</p> <p>また、現代の社会科は、新しい学力観によって、生徒の関心、学習意欲、態度が重視されているので、指導方法について考究することが大切となる。地理的内容、歴史的内容、公民的内容に対応した指導方法が工夫できるように講義を進めたい。特に、後期は、授業の模擬授業を行うなどして、授業の実践力を身につけさせるようにする。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部省『中学校指導書、社会編』大阪書籍</li> <li>・小川一郎『在り方生き方指導の理論と実践』清水書院</li> </ul>
評価方法	出席を重視する。	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前期 (I)

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、前期の社会科教育法Ⅰの講座の概要説明と戦前の修身、地理、日本歴史等の授業内容、方法と性格について説明し、新しい社会科の前史を理解させる。
2	第2回目の授業では、戦後の修身、日本歴史、地理の授業停止や日本側の反省にもとづく新しい科目の設定構想、アメリカ教育使節団による社会科の提案などについて説明し、社会科出発時の理念や経過を理解させる。
3	第3回目の授業では、出発時の社会科の内容（初期社会科）について説明し、新教育の中心科目となったことについて理解させる。
4	第4回目の授業では、社会科スタート時、初期社会科において支配的だった問題解決学習の理論と実践について説明する。
5	第5回目の授業では、初期社会科への批判が学力低下に向けられ、また道徳教育の充実と関連させて、社会科に対する批判や要望が出て、学力論争が行われたので、その事情や内容について説明する。
6	第6回目の授業では、歴史的に社会科の学習指導要領の変遷を追ひ、改訂ごとの趣旨や要点その背景などについて説明する。
7	第7回目の授業では、最も新しい平成元年度の学習指導要領（社会科）の改訂について、その趣旨、改訂の要点、その背景などについて説明する。
8	第8回目の授業では、社会科の目標、地理的分野、歴史的分野の改訂の要点、各目標、内容の概略について説明する。
9	第9回目の授業では、公民的分野の改訂の要点、目標、内容について説明する。なお、教科全体についての内容構成の特質と時代背景について理解させるようにする。
10	第10回目の授業では、社会科の各分野の指導計画の作成と内容の取り扱いについて説明する。
11	第11回目の授業では、社会科の各内容に即したいろいろな指導法があることを示し、その概略について説明する。
12	第12回目の授業では、現代の民主主義の課題について、2、3あげ、その取り扱いについて考察する。
備考	

### 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、後期の社会科教育法Ⅱは、社会科教育法Ⅰの実践篇ともいうべきもので、社会科指導の実践的指導力を育成するための講座であることなど、その概要について講義する。
2	第2回目の授業では、指導方法と特に関連の深い新しい学習指導要領や指導要録からひき出される新しい学力観と社会科教育の関連について講義する。
3	第3回目の授業では、論理的思考力、判断力、表現力を育成する公民科の代表的な教育法について考察する。
4	第4回目の授業では、学習指導案の作成について説明し、中学校社会科の教科書を参考に実際に指導案作成の計画を立てさせ、次回の授業までに指導案を作成させる。
5	第5回目の授業では、作成した指導案を持参させ、学生個々に指導案作成時の苦心したことや配慮したことなど、自分の作成した指導案について発表させる。
6	第6回目の授業では、人数にもよるが、前回に続いて学生個々に作成した指導案について発表させ、意見を交換し、講評し、よりよい指導案とするように授業を進める。
7	第7回目の授業では、実際に作成した指導案に基づいて模擬授業を行わせる。(地理的分野、歴史的分野について各30分で行う)。
8	第8回目の授業では、前回に引き続き、公民的分野の模擬授業を行い、その後で講評する。
9	第9回目の授業では、新学力観に立った授業方法としてディベートを取り上げ、そのねらいや方法など講義し、取り上げるテーマなど出させ、次回に、実際にディベートを行う準備をする。
10	第10回目の授業では、二つのテーマについて、実際にディベートを行わせる。その後で、行ったディベートについて、意見や感想を交換し、最後に講評する。
11	第11回目の授業では、前回と同じようにディベートを実際に行わせる。前回と同様、意見、感想の交換と講評を行う。
12	第12回目の授業では、社会科教育法について総括を行う。特に社会科の特質と教育方法に力点をおかねばならないことを明らかにする。
備考	

科目名	地理・歴史科教育法（地理）	担当者名	犬井 正
-----	---------------	------	------

講義の目標	高等学校における地理歴史科の地理に関する教科教育法の講義である。地理教育史、地理教育の方法、地理教育の実際、地理教育の課題を考察する。		
講義概要	講義はVTR、討論形式、スライドなどを援用しながら進めていく。年間予定計画に示したように、毎回適宜なトピックを提示しながら、高校における地理教育の実際、展望等を行う。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	参考文献リストを第二週以降に配布する。	
評価方法	授業への貢献度とレポート等の結果を総合的に判断する。		
受講者に対する要望など	特になし。		

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等のオリエンテーションを行う。
2	第二次世界大戦後の地理教育のあゆみ。アメリカの社会科教育の影響、および日本の小・中・高等学校の地理教育の関連を中心とする。
3	社会科教育における地理教育と、新しい地・歴科における地理教育の相違について。文部省高等学校学習指導要領を中心として考察する。
4	学習指導要領と教科書（地図帳を含む）の持つ意味について。「教科書で教えるのか、教科書を教えるのかの論争」を考察する。
5	地理教育の実際（1） 地図（読図・描図）教育の基礎的方法について。
6	地理教育の実際（2） 自然地理学習の意義を理科教育、特に地学教育との関連と相違を通して考察する。
7	地理教育の実際（3） 野外観察、野外調査、地域調査の計画と指導法について。
8	地理教育の実際（4） 地理的情報の活用と効果的な地名学習の方法について。
9	地理教育の実際（5） 系統地理学習と地誌学習の相違および学習効果について。
10	地理教育の実際（6） 異文化理解と国際理解の方法。時事問題の取り扱い方に関連させながら講述する。
11	地理教育の実際（7） 年間指導計画と評価について。
12	講義のまとめにかえて、現在日本の地理教育が直面している課題について講述する。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	地理・歴史科教育法（歴史）	担当者名	古川 堅 治
-----	---------------	------	--------

講義の目標	<p>「歴史」を教えるということは、常に教える側の歴史観を問われることでもある。その意味で「歴史」を教える事の「コトの重大さ」を認識する必要がある。それらを前提に現代の歴史学の成果との関連、歴史教育の沿革、具体的な方法などをとりあげながら歴史を教える基本的なスタンスを確立することが本講座のねらいである。</p>	
講義概要	<p>講義ではプリントを配布しながら概説的に説明していくが、積極的な討論がわきあがることも期待したい。また、ビデオの上映によって、今、問題になっている教科書論争についても考えていきたい。授業はアト・ホームな雰囲気で行うことに心がけたい。なお後半3回は「模擬授業」を行い、各回とも2人ずつ（1人30～40分）、それぞれ日本史、世界史どちらの分野でも自分で好きなテーマを選んで「授業」を行ってもらおう。</p>	
使用教材	テキスト	特に使用しない。
	参考文献	その都度参考文献を提示する。
評価方法	<p>レポートをもって評価する。テーマ、〆切日、枚数等は授業中に提示する。なお、「模擬授業」を希望する人はそれをもってレポートに替える。</p>	
受講者に対する要望など	<p>主体的、積極的に授業に臨むことを期待する。</p>	



## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	「歴史教育と歴史学」 なぜ歴史を学ぶのか。歴史研究と歴史教育の関係のあり方などについて考察する。
2	「歴史教育の沿革」 わが国の戦前・戦後の歴史教育のあり方をふり返り、歴史教育の今日的状況を明らかにする。
3	「歴史教科書の問題」I 近・現代史に関する日本とアジア諸国のとらえ方の違いとその問題点を考える。
4	「歴史教科書の問題」II（ビデオ「日韓歴史教科書論争」）
5	「歴史教育の方法」(1. 人物学習) 歴史上の人物をいかにとりあげ、評価すべきかを中心に考えてみたい。
6	「歴史教育の方法」(2. 地域学習) 歴史教育上の「地域学習」の位置づけとその扱い方について考える。
7	「歴史教育の方法」(3. 史料の扱い方) 史料の多様さとそれを授業の中で使うときの問題点を考察する。
8	「日本史教育上の新しい視点」 日本史上のある時期、時代をとりあげ、新しい視点でどのようにとらえ直すことができるかを考える。
9	「世界史教育の新しい視点」 世界史上のある時期、時代をとりあげ、新しい視点でどのようにとらえ直すことができるかを考える。
10	「模擬授業」(I)
11	「模擬授業」(II)
12	「模擬授業」(III)
備考	

科目名	公民科教育法 I・II (公民科教育法)	担当者名	小川 一郎
-----	----------------------	------	-------

講義の目標	<p>新学習指導要領（平成元年）によって、高等学校の社会科は再編成され地理・歴史科と公民科と二教科に分かれ、平成6年から実施されている。公民科では公民としての資質（社会科では、公民的資質）の育成が目標とされており、そのための専門性と一貫性が重視されている。</p> <p>それゆえ、公民科教育法では、生徒の表現力や判断力を育成する教育法に重点が置かれることになる。国際化、情報化の進展に主体的に対応できる人間の育成を目指す公民科として十分それを達成できる公民科教育法を目指したい。</p>		
講義概要	<p>戦後の公民教育がどのような考え方で出発したかを先ず明らかにする。それが戦前の極端な国家主義や軍国主義の内容を持ち、画一的な押し付け教育であったことの反省の上に立つものであったことを理解させる。</p> <p>次に「公民としての資質」とは何かについて、内外のいろいろの考え方を検討し、現代社会に対応する「公民としての資質」を模索する。さらに、学習指導要領の公民科の目標・内容などを理解させる。</p> <p>後期は、目標・内容に対応した指導方法を研究し、実際に模擬授業などを行い、授業実践力を身に付けさせる。また、表現力や判断力を身に付けさせるため、ディベート授業を実際に行うなどして新しい授業方法を採用する意欲をもたせる。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部省『高等学校学習指導要領解説・公民編』実教出版</li> <li>・小川一郎『在り方生き方指導の理論と実践』清水書院</li> </ul>	
	参考文献		
評価方法	出席を重視する。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前期 (I)

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、年間の公民科教育法の講座の概要、特に前期の公民科教育法Iについて説明する。また、現代社会と公民科教育の役割についても述べるようにする。
2	第2回目の授業では、戦後の公民教育について審議した公民教育別新委員会の答申や平和的な民主国家、文化国家としての指針を示した。新教育指針から、新しい公民教育の目指すものについて講義する。
3	第3回目の授業では、公民教育、公民科教育の意義や目的を正しく理解させるために、「公民」の概念や「公民としての資質」について検討する。
4	第4回目の授業では、公民科教育が知識の認識にとどまらず、態度、意欲、技能など育成することが大切である。そのための指導方法を身につけさせるため、いくつかの代表的な指導方法を考察する。
5	第5回目の授業では、平成元年の学習指導要領で社会科が再編成され、公民科が誕生した理由、社会的背景などを考察する。また、社会科のなかの倫理や政経などの分野の変遷についても説明する。
6	第6回目の授業では、公民科の教育目標、内容構造について講義する。
7	第7回目の授業では、公民科の科目「現代社会」の内容構成とその目標について講義する。
8	第8回目の授業では、公民科の科目「倫理」の内容構成とその目標について講義する。
9	第9回目の授業では、公民科の科目「政治、経済」の内容構成とその目標について講義する。
10	第10回目の授業では、「人間としての在り方生き方に関する教育」について考察し、公民科の各科目でどのように実践するかを講義する。
11	第11回目の授業では、世界の主な国の公民教育について考察する。それと日本の公民教育と比較し、公民科教育の充実を目指すために、学生と意見を交換する。
12	第12回目の授業では、公民教育が現代において当面するいくつかの課題について考察する。
備考	

### 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、後期の公民科教育法IIは、前期の公民科教育法Iの実践篇であること、公民科指導の実践は指導力を育成するための講座であることなど、教育実習時の授業など、後期の授業の概要を説明する。
2	第2回目の授業では、指導方法と特に関連の深い、新しい学力観における関心・意欲・態度の育成や表現力、判断力の伸長と公民科教育の関連について説明する。
3	第3回目の授業では、公民科の授業づくりに際して、「教育内容」と「教材」と「授業過程」について実例をあげて説明する。授業は教師各自の創造であることを認識させる。芸術作品であるといっても過言ではない。
4	第4回目の授業では、授業案の作成について説明し、高校公民科の教科書を参考に実際に指導案作成の計画を立てさせ、次回の授業までに学習指導案を学生各自に実際に作成させる。
5	第5回目の授業では、作成した指導案を持参させ、学生個々に自分の指導案についてその特質や苦心したところなど発表させ、意見交換を行い、講評する。
6	第6回目の授業では、「倫理」と「現代社会」の模擬授業を実際に行わせ、自己批評、感想をもとに意見を交換し、講評する。
7	第7回目の授業では、「政治、経済」の模擬授業を行い、意見を交換し講評し、各自が作成した指導案について再検討させ、一層よい指導案となるように考究させる。
8	第8回目の授業では、論理的思考力や表現力を育成する授業方法としてディベートが有力な一つであることを示し、学校の授業で行うディベートについて説明する。
9	第9回目の授業では、次回の講座でディベートを実際に行うことを知らせ、そのテーマについて説明し、それを選択させ、役割分担や班を編成させ、それぞれに話し合いをさせる。
10	第10回目の授業では、ディベートを実際に行わせる。1テーマについて30分ごとで2テーマを行う。
11	第11回目の授業では、前回の授業に引き続いて、一つのテーマについてディベートを実際に行う。今まで行ってきたディベートについて意見や感想を交換し、公民科の授業にどのように取り入れるか考察する。
12	第12回目の授業では、公民科教育法について総括を行い、公民科の特質、教育方法における重要点を明らかにする。
備考	

科目名	(前)(後) 道徳教育の研究	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	----------------	------	---------

講義の目標	今日の道徳教育への強い要請は、①子どものいじめや登校拒否等を中心とする社会病理的問題、②社会の脱工業化・情報化・高齢化等にもなう問題への対応策として主張されることが多い。しかし教育の本来的目的は「人格」形成にある。子どもの中に自律的で実践的な道徳性を形成することを目標とする道徳教育は、教育の究極の目的でもあり、単なる対応策の手段ではない。価値が多様化し、激変する社会の中での道徳教育は、如何に可能かも明確に問われなければならない。本講義では、人間は何故に道徳を問題にし、また道徳性が必然であるのかを考察し、学校における道徳教育の役割と方法を明らかにすることを目標とする。		
講義概要	(1)道徳とは何かについて、(2)わが国の道徳教育の変遷について、(3)学校における道徳教育の構造について考察する。		
使用教材	テキスト	「これからの道徳教育を求めて」山崎英則 編著 学術図書出版社	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「徳の現象学」 ボルノー著 白水社</li> <li>・「教育を支えるもの」 ボルノー著 黎明書房</li> <li>・「道徳性の発達と教育」 コールバーク著 新曜社</li> </ul>	
評価方法	定期試験によって評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前期、後期

週	主 要 テ ー マ
1	道徳とは何か
2	道徳教育の目的
3	道徳教育の倫理的な基礎
4	道徳教育の心理学的な基礎
5	明治期の道徳教育と教科書政策について
6	大正・昭和（終戦まで）の道徳教育
7	戦後の占領政策と道徳教育
8	全面主義道徳と「道徳の時間」の特設について
9	各教科と道徳教育の関係について
10	特別活動と道徳教育の関係について
11	「道徳の時間」における道徳教育について
12	道徳教育と教師
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	(前) 特別活動 (後)	担当者名	川村 肇
-----	-----------------	------	------

講義の目標	「知育の場」としての学校には、多く知育以外の活動と教育が行なわれている。本講では、その知育（教科活動）以外の活動をひとくくりに行っている「特別活動」の、歴史と取り組みの基本的考え方を深める。		
講義概要	「新学力観」と子どもの自主的活動とのかかわりを考察し、自治的活動の教育における重要な意義をつかむ。その上で、日本の学校において歴史的に展開されてきた特別活動を、具体的事例をまじえながら検討し、相対化する。		
使用教材	テキスト	配布プリント類。	
	参考文献		
評価方法	試験		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	特別活動とは何か
2	「新学力観」と自主的活動
3	教育と自治 (1) ——自治と教育の本質——
4	教育と自治 (2) ——大学の自治——
5	学校行事とその歴史的展開 (1) ——戦前まで——
6	学校行事とその歴史的展開 (2) ——戦後——
7	諸学校行事の指導 (1)
8	諸学校行事の指導 (2)
9	集団主義教育と現代
10	道徳教育と特別活動
11	諸課外活動
12	試験
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	(前期と同じ)
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	(前) 特別活動	担当者名	佐藤利明
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>学習指導要領第1章総則第1教育課程編成の一般方針及び特別活動目標の基礎理念と、具体的分野における実践活動について理解し、特別活動が学校教育における活力の重要な領域であることを講義する</p>	
講義概要	<p>学習指導要領のねらい（教育課程審議会答申を含め）と教育課程一般方針の説明          特別活動と学校教育目標の具現化          学級（H.R）活動の人間関係と指導計画の実際          生徒会活動の意義と指導計画の実際          クラブ活動の意義と組織運営及び課外活動との関連、問題点          学校行事の意義と指導計画、各行事の実際          特別活動と進路指導・生徒理解</p>	
使用教材	テキスト	プリント配布
	参考文献	
評価方法	<p>レポート評価と定刻出席          レポート提出 教務課あて 平成7年7月24日まで          レポート課題 最終時出題</p>	
受講者に対する要望など	<p>止むを得ず欠席の場合は、事前に欠席届と、作文（課題はその都度提示）を提出する。事後の場合はすみやかに同様提出する</p>	



## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	(1)期中の講義内容の概要説明 (2)学習指導要領とは (3)学習指導要領総則について (4)中・高等学校教育の一貫性について (5)教育課程審議会答申 (6)特別活動の内容・名称の変遷 ※プリント配布
2	(1)心の教育の充実、基礎基本の重視と個性教育の推進等4つの柱について (2)学級(H.R)活動の学校教育に於ける機能の重要性について
3	(1)目的と目標の概念 (2)学校教育目標と特別活動のかゝわりについて (3)特別活動の目標と4分野について
4	(1)学級(H.R)活動の指導計画の実際(1校時活動と短時間活動をとおしての学級(H.R)目標達成、人間関係、係活動等)
5	(1)生徒理解の場 (2)活動の実践と評価 (3)成し得る目標の設定 (4)達成感・成功感を味わせ自信をもたせる教育の展開
6	学級(H.R)活動における係活動(問題意識をもたせる、係の必要性を認識する、その種類と担当者、実践と評価)
7	生徒会活動の意義と組織運営(全校生徒が自覚と充実した学校生活ができ、役員だけの生徒会にならない工夫)
8	生徒会活動と学年・学級(H.R)活動の関連、生徒会活動の年間指導計画の実際と評価、個々が所属感をもつ生徒会活動の実際
9	クラブ活動の意義と組織運営、クラブ活動と課外活動、クラブ活動の問題点と解決策、年間指導計画及び各時の指導計画の実際
10	学校行事は、全校又は学年を単位として行う総合的・体験的な活動でありその実践例
11	学校行事は、人間としてのあり方生き方の指導の場である。行事の具体例(地域の特性を加味する場合等)年間指導計画と各行事の実際、行事の精選
12	(1)まとめ (2)特別活動の今日的課題と考察 (3)レポート課題提示
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	(前) 特別活動	担当者名	藤井光男
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>学習指導要領に示された、中学校・高等学校における特別活動の目標を通して、特別活動の特質と内容を十分に理解するとともに、その指導原理や方法について、理論的、実践的に学び、学校教育の中で果す特別活動の果す役割と課題について説明する。</p> <p>「為すことによって学ぶ」この教育活動を実習への伏線としての役割をも配慮して学ぶ</p>		
講義概要	<p>特別活動の今日的意義と目標をしっかりと把握することにより、教育活動のもつ琴線ふれ、現代社会と特別活動のかかえる課題と、今後5日制に突入する学校教育の現状と課題をも考え合せ、人間としての生き方、在り方の探究を考察する。</p> <p>とりわけ今日的課題を「いじめ」についてのかゝわり、教育相談、地域社会、ボランティア活動や福祉教育に関するかゝわり等も実践例として取りあげ特別活動の果す役割を身につける講義としたい。</p>		
使用教材	テキスト	適宜プリントで資料を作成し、効果を図る	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校指導要領（中学校、高等学校）</li> <li>・文部省刊行物</li> </ul>	
評価方法	<p>各1回のレポートの評価と定刻出席をもって評価する。但し止むをえず欠席の場合は、事前に欠席の理由を連絡すると共に、担当者より課題の提示をうけ、事後担当者に提出する事</p> <p>レポート提出日、前期 7月24日(月) 教務課</p>		
受講者に対する要望など	<p>教員となる確な心構えをもち、必ずその目標を遂行する決意をもって受講されることを望む。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	特別活動の今日的意義と目標について
2	教育活動の変遷について
3	特別活動の特質と内容について
4	指導計画の作成と活動の評価
5	学級活動・ホームルーム活動の指導について
6	生徒会活動の指導について
7	クラブ活動・部活動について
8	学校行事の指導について
9	特別活動と学校経営について
10	特別活動と地域社会について
11	特別活動における今日的課題について
12	まとめ レポート課題の提示
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	(前) 生徒指導法 (後)	担当者名	川村 肇
-----	------------------	------	------

講義の目標	生徒指導という名で行なわれている人権侵害と子どもの権利への蹂躪の実態をふまえて、本来あるべき生徒指導とは何かを考察する。	
講義概要	具体的事例を、校則、登校拒否、体罰、イジメ等の角度から考察し、それをふまえて生徒指導の原理に迫りたい。	
使用教材	テキスト	配布プリント類。
	参考文献	
評価方法	試験	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	生徒指導とは何か (1) —— 領域論と機能論 ——
2	生徒指導とは何か (2) —— 生徒指導と生活指導 ——
3	生徒指導とは何か (3) —— 学校における指導の可能性と限界 ——
4	現代の生徒指導 (1) —— 校則 ——
5	現代の生徒指導 (2) —— 登校拒否 ——
6	現代の生徒指導 (3) —— 体罰 ——
7	現代の生徒指導 (4) —— 校内暴力 ——
8	現代の生徒指導 (5) —— イジメ ——
9	現代の生徒指導 (6) —— 制服 ——
10	生活綴方運動と生徒指導
11	学力と生活指導 —— 「新学力観」にもふれて ——
12	試験
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	生徒指導とは何か (1) —— 領域論と機能論 ——
2	生徒指導とは何か (2) —— 生徒指導と生活指導 ——
3	生徒指導とは何か (3) —— 学校における指導の可能性と限界 ——
4	現代の生徒指導 (1) —— 校則 ——
5	現代の生徒指導 (2) —— 登校拒否 ——
6	現代の生徒指導 (3) —— 体罰 ——
7	現代の生徒指導 (4) —— 校内暴力 ——
8	現代の生徒指導 (5) —— イジメ ——
9	現代の生徒指導 (6) —— 制服 ——
10	生活綴方運動と生徒指導
11	学力と生活指導 —— 「新学力観」にもふれて ——
12	試験
備考	

科目名	(前) 生徒指導法	担当者名	藤井光男
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>学校教育で特に重視しなければならないのは、生徒指導の問題である。特に今日的な「いじめ」の問題を始め、生徒指導にかかわる諸問題が多発している。</p> <p>そこで生徒指導についての在り方、果す機能、役割を現実の課題から学び理論的、実践的生徒指導法を身につける</p>		
講義概要	<p>生徒指導の原理と学校の中での機能を十分に理解し、生徒指導のもつ特性すなわち、積極的にすべての生徒のそれぞれの人格のよりよい発達を目ざすとともに、学校生徒がひとりひとりにとって、また学級や学年、さらに学校全体といったさまざまな集団にとっても、有意義に興味深く充実したものになるようにすることを目ざすものであることをしっかりと把握し、よりよい生徒指導の在り方を追求していきたい。</p> <p>特に今日的な諸問題を取り上げ、理論的な解明と実際の対処の仕方についても共に研究する</p>		
使用教材	テキスト	適宜プリントを配布する	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の手引（改定版）文部省</li> </ul>	
評価方法	<p>レポートの提出と、出席によって評価する。特に今日的課題について、考察を深める、やむを得ず欠席した場合、必ずそれに替る課題を受け提出するものとする。</p> <p>レポート提出は、7月24日（月） 教務課</p>		
受講者に対する要望など	教職を志す者として、将来教員として就職する目的意識をもった学生の受講を期待する		

## 年 間 講 義 予 定

### 前期

週	主 要 テ ー マ
1	生徒指導の意義と課題について
2	生徒指導の原理と機能について
3	生徒指導の系譜について
4	生徒理解の方法について
5	教科指導・道徳指導・特別活動と生徒指導について
6	進路指導と生徒指導について
7	学校教育相談について
8	学級、学年、学校経営と生徒指導について
9	生徒指導と教育法制について
10	問題行動の指導について
11	生徒指導と家庭教育・地域社会について
12	まとめ レポート課題の提示
備考	

### 後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	生徒指導法	担当者名	福島哲夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>生徒との信頼関係の樹立、生徒や父母、その他の関係者と協力して問題解決に当たる姿勢の確立を目的とする。そのために「よりよい聴き方」と「優しさと厳しさのバランスの取れた指導法」の習得をめざす。また、実習を通じて各人の偏りや持ち味などへの自己理解も深めたい。</p>		
講義概要	<p>上記の目標を達成するためにできるだけたくさんの「ロールプレイ」や実際の実例に即した実習、グループ討議、視聴覚教材を使った学習をおこなう。特にできるだけいろいろな種類の事例に触れていくことで、生徒理解を深め、「その場」で起きている人間関係の実質を感じ取れる感性を養うよう心がけて行きたい。</p>		
使用教材	テキスト	適宜、提供・紹介する。	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は授業への参加度とその際の習熟度、および試験によって決定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>体験と習熟を最も重要とする授業であるため、遅刻・欠席をせぬよう努めていただきたい。参加することを第一の意義とする。</p>		



## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では半年間の講義概要の説明と、生徒指導における「聴く」ことの重要性について考える。
2	第2回目の授業では「聴く」ということについてさらに考察し、受講生同士の話を「聴く」実習をもとに話し合う。
3	第3回目の授業ではカウンセリング事例のテープを聴き、その要点について考える。
4	第4回目の授業では「不登校ぎみの中学生の事例」を読み、事例への理解を深め、さらにロールプレイを通じて、どのように対応したらよいかを考える。
5	第5回目の授業では前週の実例についてさらにロールプレイをかさね、「聴き方」「関わり方」の要点を身につける。
6	第6回目の授業では「反抗的な生徒の実例」を読み、考察と実習を深める。また、受講生の自己理解のために簡単な心理テストを実施する。
7	第7回目の授業では前週の実例の復習と生徒理解のための精神医学の基礎を講義する。
8	第8回目の授業では「孤立しがちな生徒の実例」を読み、事例に即して考察と実習を深める。
9	第9回目の授業ではさらに別の事例に即して、考察を実習を深める。
10	第10回目の授業ではさらに別の事例に即して、考察を実習を深める。
11	第11回目の授業ではさらに別の事例に即して、考察を実習を深める。
12	第12回目の授業ではこれまでの授業のまとめとレポートのテーマ発表を行う。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	(後)教育実習Ⅰ	担当者名	小川 一郎
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>教育実習について、その概要を理解し、目的意識をもつてのぞめるようにする。そのためには教育実習の意義や目的について、先ず、十分に理解することが大切である。また、実際に実習を行うに当たって、実習校に迷惑にならないようにし、新風を吹き込んで生徒に刺激を与えるために、授業にのぞむ心構え、生徒とのコミュニケーションのとり方などを重視する。さらに、実習期間の仕事の内容を理解させ、十分な事前の準備ができるようにする。現在、生徒指導上の課題が各学校にあり、それについての理解も進めるようにしたい。</p>	
講義概要	<p>先ず、教育実習の意義・目的について十分理解させるようにする。次に、教師とはどのような使命をもつものなのか、どのような資質が必要なのかを考察する。生徒への教育愛や生徒理解が特に大切であることを気付かせる。また、そのような教師になるためには、生徒とのコミュニケーションをする能力も必要であり、それらの資質は社会経験や体験活動などに参加することによって得られるものであることを理解させる。</p> <p>さらに、大切なことは、教育実習にのぞむに当たっての心構えである。基本的な法規はもちろんのこと、実習校の教職員や生徒との対応、細かなことだが服装や礼儀など十分身につけるように理解させたい。</p>	
使用教材	テキスト	適宜、プリント配布
	参考文献	小川一郎編著「ホームルーム担任必携」文教書院
評価方法	評価は、レポートと授業への参加を考慮して決定する。	
受講者に対する要望など	教育実習の事前指導なので、講座に出席することが大切である。教育実習が間近に迫るといろいろ不安や疑問をもつようになる。十分な準備をもって対応するようにしたい。	

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、この講座が制度化された意義や目的について、また、この講座で何を行うか、概要について説明する。
2	第2回目の授業では、教師としての資質として何が必要か、教師の仕事の性質などについて説明する。
3	第3回目の授業では、教育実習の意義・目的について具体的に説明する。また、先輩の実習の経験からどのような感想をもったか、どのようなことに苦労したかについて説明する。(アンケート等参考に)
4	第4回目の授業では、教育実習全般について、事前の準備や実習校との連絡、実習期間、事後についてどうすべきか、心得と準備について説明する。
5	第5回目の授業では、教育実習の形態に(1) 観察、(2) 参加、(3) 教壇実習があること、また、それぞれについて留意すべきこと、さらに、実習生は自分なりの課題をもつようにすることの大切さについて説明する。
6	第6回目の授業では、教育実習の内容について、学校の教育活動の内容について説明する。
7	第7回目の授業では、研究授業への対応、教材研究について説明する。特に、教材研究には、多くの時間を必要とするので、その自覚がもてるように説明する。
8	第8回目の授業では、学級担任としての学級経営と学級経営上の諸問題について説明する。学級担任の生徒に果たす役割は非常に大きなものがあることを理解させる。
9	第9回目の授業では、学級担任としての生徒指導、進路指導について説明する。最近、いじめ、登校拒否など対応のむずかしい問題が増加している。どのように対応するか具体的に考察し、説明する。
10	第10回目の授業では、生徒理解の方法と生徒とのコミュニケーションをどのように進めるか説明する。
11	第11回目の授業では、教師として義務づけられている研修について、法規などを含めて説明する。
12	第12回目の授業では、教員としての勤務やサービスなど、必要な法規について説明する。
備考	

科目名	(後) 教育実習 I	担当者名	佐藤利明
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>教育行政のしくみ及び学習指導要領・教育課程の基本的事項と、魅力ある授業の展開方法、教師と生徒とのよい人間関係をつくるうえでの心がまえ、さらに教師の日常活動を理解し一層充実した感動ある教育実習に資する</p>	
講義概要	<p>都道府県・市町村教育委員会と学校及び教職員の関係。          私立学校          教育職員としての専門性          学習指導要領の根拠とねらい及び教育課程          学習指導案の立案          よい授業をすすめるための教材研究と授業の実際          生徒指導・道徳教育・特別活動・同和教育・生徒理解等の実際          職員会議等各会議への参加の心構え</p>	
使用教材	テキスト	教育実習の指針及びプリント配布
	参考文献	
評価方法	<p>レポートの評価と定刻出席          レポート提出 教務課あて、平成8年1月23日まで          レポート課題 最終時出題</p>	
受講者に対する要望など	<p>止むを得ず欠席の場合は、事前に欠席届と、作文(課題はその都度提示)を提出する 事後の場合はすみやかに同様提出する</p>	

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	(1)講義概要説明 (2)学校教育に関する関係法令規則の概要 (3)目的と目標 (4)私立学校 (5)都道府県・市町村教育委員会と学校及び教職員 ※プリント配布
2	教育職員の専門性(教職観、教師像、職務内容、研修、生徒理解等)
3	学習指導要領(教課審答申を含む)のねらい。中学校教育と高等学校教育の発達段階に応じた一貫性ある教育
4	教育課程編成及び年間指導計画と毎時の学習指導案の実際
5	よい授業をするための教材研究と学習指導案の実際
6	学習指導の実際、指導方法、成就感・成功感を味わせる指導等
7	生徒指導のねらい(特に心の教育の充実ほか3項目)の具現化。同和教育。学校事故
8	道徳教育の資料と指導案のたてかた
9	特別活動指導で、特に学級(H.R)活動の指導と学級(H.R)経営
10	教師の一日、出勤から退勤までの活動のなかで、特に留意する事項
11	職員会議、学年会議、教科会議への参加と心構え
12	教育実習についてのまとめ。学校教育の今日的課題と対応。レポート課題提示
備考	

科目名	(後)教育実習 I	担当者名	藤井光男
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>教職について深い認識をもち、実際の教育実習で生きて働く力となる実践的な教育理念や、現場のもつ課題に対する対処の仕方、方法を研究し、現在かかえている教育問題の解明に取り組み、教育実習の目標が達せられる資質を身につける。</p>		
講義概要	<p>学習指導要領が改訂され、小・中・高が本格的に 21 世紀に向って始動した。即ち社会の変化に対応する能力の育成と、個性を重視した教育の充実である。人間を尊重する教育の重要性が益々求められている今日、思いもよらぬ教育問題が多発しているのが現状である。教師の使命の重大さを一層認識しなければならないし、その期待に添える教師の育成に拍車をかけなければならない。この意味からも、教育実習のもつ本質を理解させ、即実践性のある力を備える必要がある。多発する課題や現場の問題を取り上げそれに備え教育実習の糧とする。</p>		
使用教材	テキスト	教育実習の指針	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学省指導要領</li> <li>・高等学校学省指導要領</li> </ul>	
評価方法	<p>各1回のレポートの提出と出席をもって評価する。やむを得ず欠席する者は、必ず担当者より課題の提示を受け提出することを厳守する</p> <p>レポート提出は、1月23日(火) 教務課</p>		
受講者に対する要望など	教職を志望する者		

前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	教育課程の趣旨と多発する教育問題についての把握と今後の動向について
2	学校教育に関する法規と教師の専門性について
3	学習指導要領と各専門教科とのかかわりと、教育課程の編成要領について
4	学習指導の実際とその指導方法（よい授業をするにはどんな配慮が必要か）について
5	教師と一日と、教師の在り方について
6	教科担当・学級担当としての教科・学級の経営のあり方や、諸問題について取り上げよりよい教科担当・学級担任としての資質の向上をはかる
7	生徒指導・特別活動の実際を学び、人間としての在り方、生き方について
8	教師の学校における役割や、実際の教育活動に対する問題点を摘出し、その対処の仕方や解決方法について
9	道徳教育の授業実践の方法を学び、道徳教育と他教科の関連を十分に理解し、教育実習の効果を図る
10	中学校、高等学校の特質をよく認識して、教育実習校に対する心構えを高め、よりよい実習ができるよう努める
11	教育実習に対する詳細についてまとめ、目的が達せられるよう、各校種について吟味する。
12	まとめ レポート課題の提示
備考	

科目名	教育思想史	担当者名	川村 肇
-----	-------	------	------

講義の目標	主として日本の教育をめぐる知的遺産の歴史的検討を通じて、現代の教育に関する諸思想を相対化し、未来を主体的に創る教育思想のあり方をつかむ。	
講義概要	主として日本の教育思想家の論じた資料を、全体で読みながら位置付けを考えていく。	
使用教材	テキスト	配布プリント類。
	参考文献	
評価方法	試験	
受講者に対する要望など		



## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	「教育」は発見された——アリエスとルソー——
2	日本の教育思想 (1) ——江戸時代 (1) ——
3	日本の教育思想 (2) ——江戸時代 (2) ——
4	日本の教育思想 (3) ——明治初年の教育思想——
5	日本の教育思想 (4) ——有機体説をめぐって——
6	日本の教育思想 (5) ——教育勅語と天皇制ファシズムの教育——
7	日本の教育思想 (6) ——大正民本主義の教育思想——
8	日本の教育思想 (7) ——マルクス主義の教育思想——
9	日本の教育思想 (8) ——「反」「非」ファシズム教育思想——
10	日本の教育思想 (9) ——現代の教育思想 (1) ——
11	日本の教育思想 (10) ——現代の教育思想 (2) ——
12	試験
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	教職演習	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	------	------	---------

講義の目標	<p>将来教職をめざそうとする人に、ゼミ形式の学習形態で、必修の科目に含み切れない内容等を自由に勉強してもらうために開設されたものである。必修の単位を集めれば教員免許は取得できるが、その枠をこえたところで自主的に学ばれるものが将来の教師の基礎力（研究と教育の両面）となり、また人間としての幅（教養）を形成することは間違いない。教職課程を履修する人は、学部学科の主専攻のゼミの勉強に加える副専攻のゼミのつもりで積極的に参加されることを希望する。</p>	
講義概要	<p>参加する者が自主的に学びたいテーマを見つけて一年間をかけて研究的に勉強することを援助する。教師にも研究と教育の両面が要求されるからである。昨年度は「道德教育」や「子どもの主体性の形成と生活環境との関係」等が自主研究のテーマになった。</p> <p>また講義では教師論や教育実践論等を中心にテキストを参考にしながら勉強することも行われる。平成7年度は、授業論等に関するテキストを読み進める予定である。</p>	
使用教材	テキスト	「教育実践学」 高久清吉著 教育出版
	参考文献	必要に応じて指示する
評価方法	研究についての報告とその一年間のまとめ（ゼミ論）によって評価する。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	日本史概説	担当者名	新井孝重
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>前期には、古代から中世の変革の「法則」を具体的な歴史叙述を読みとるなかで学びとる。歴史を理論的、哲学的に学びたい。後期には、なるべく歴史の全体を構造的に流れをおって把握するようにしたい。</p>	
講義概要	<p>戦後歴史学の主要な学説は、領主制理論というものが主軸になっている。奴隷制的経済制度を揚棄して、新たな経済制度である農奴制が形成されるがそうした変革期中世農村のすがたを、村落共同体、武士団、荘園制などの歴史事項を通して学ぶ。</p>	
使用教材	テキスト	<p>石田田 正『中世的世界の形成』（岩波文庫） 竹内 誠（他）編『史料教養の日本史』（東大出版）</p>
	参考文献	
評価方法	<p>評価は、後期の年度末試験の成績にもとづいておこなうものとする。</p>	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業。『中世の世界の形成』という書物のあつかうテーマ、叙述の構成を紹介して、これを読書することの学問的意義を論ずる。
2	第2回目の授業。第1章 藤原実遠 (私営田領主としての藤原実遠の所領の成立。構造、特徴を説明)
3	第3回目の授業。第1章 藤原実遠 (私田経営の破綻の必然制、初期領主実遠の没落とその跡にあらわれる東大寺の支配をみる)
4	第4回目の授業。第2章 東大寺 (I) (古代の東大寺の財政的逼迫、畿内近国荘園としての黒田荘建設運動の様態をみる)
5	第5回目の授業。第2章 東大寺 (II) (東大寺の公領侵略にあたっての独特の古代的論理を、荘の住民の身分規定を通してみる)
6	第6回目の授業。第2章 東大寺 (III) (古代都市奈良に所在する東大寺は本質的に農村と敵対する法をもっていた。古代法と中世法の二つの法をみる)
7	第7回目の授業。第3章 源俊方 (I) (農村の支配者源俊方について、彼の家系、生活の形態、精神、感情などをみる)
8	第8回目の授業。第3章 源俊方 (II) (源俊方とその一統からなる在地の武士団を、存在構造・惣領制などを通してみる)
9	第9回目の授業。第3章 源俊方 (III) (源俊方は農村の領主的支配権を守るため東大寺と戦って敗れる。その後農村の武士は封建的領主への成長に失敗)
10	第10回目の授業。第4章 黒田悪党 (I) (武士の敗北のあと、東大寺は悪僧を荘園に下向させて武装統治にあたる。東大寺によって古代は再建された)
11	第11回目の授業。第4章 黒田悪党 (II) (荘園支配の矛盾に遭遇する寺家は新しい統治方式を生みだすが、それがいかなるものであったかをみる)
12	第12回目の授業。第4章 黒田悪党 (III) (東大寺に反抗する在地の武士が悪党としてしか存在しえなかったことの意味を考える。)
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業。律令国家の構造 (律令制のしくみと矛盾と動揺の道筋をわかりやすく説明)
2	第2回目の授業。摂関政治と院政 (摂関政治の特質とそのあとにくる院政のありようを、政治史的に概観する)
3	第3回目の授業。荘園制と武士団 (土地制度に注意しながら、武士が発生する社会的土壌をさぐる。また、本来武士とは何かということも考える)
4	第4回目の授業。鎌倉幕府 (武家政権としての鎌倉幕府について、将軍、執権などの地位と機能について論じ、さらに得宗専制政治についても展望する)
5	第5回目の授業。南北朝内乱と室町幕府 (内乱の前提から説きおこして、元弘内乱、建武新政、新政崩壊、室町幕府成立にいたる過程を説明する)
6	第6回目の授業。大名領国の展開 (守護領国とはいかなるもので、それと国人層とはどのような関係にあるか、また戦国大名の台頭とは、を考える)
7	第7回目の授業。惣と土一揆 (中世の民衆の結集のしかたと、かれらの闘いについて考える。惣とは何か、土一揆とは……具体的に説明したい)
8	第8回目の授業。近世社会の成立 (信長政権、秀吉政権、徳川政権について、歴史的な過程をふくめて説明する)
9	第9回目の授業。対外関係と鎖国 (西欧文化の到来が日本に与えた影響、なぜキリスト教を徳川氏は禁じたのか、「鎖国」の意味について説明する)
10	第10回目の授業。幕藩制社会 (幕府と藩の関係、社会をなり立たせている身分原理について、なるべく具体的に説明する)
11	第11回目の授業。近世社会の動揺 (I) (幕政、藩政の改革についてみる。また改革を余儀なくされた政治、経済の矛盾はどこにあったかをみる)
12	第12回目の授業。近世社会の動揺 (II) (商品作物生産の盛行と農民層の分解、流通・物流の変化を都市の問題などを通して考える)
備考	

科目名	外国史概説Ⅰ・Ⅱ(東洋史概説)	担当者名	熊谷哲也
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>イスラーム世界について、前近代を中心に学ぶ。東洋史概説として通年受講をする者以外に、前期・後期を外国史概説Ⅰ、Ⅱとして単独に受講する学生も多いので、それぞれ別に目標をおきたい。前期(外国史概説Ⅰ)は歴史の概略を理解することを目標とし、後期(外国史概説Ⅱ)は宗教・文化・社会などさまざまな側面からイスラーム世界を捉えることを目標とする。</p>	
講義概要	<p>前期(外国史概説Ⅰ)では、イスラーム教創始以降の歴史の流れを概述し、イスラーム世界が成立する過程と、キリスト教世界との関係について検討する。宗教にかんする基本的な知識もあわせて理解する。</p> <p>後期(外国史概説Ⅱ)では、イスラーム世界のさまざまな断面にスポットをあて、毎回テーマを変えてすすめてゆく。最後に近代化の問題を検討することにより、今日のイスラーム諸国のさまざまな問題を理解するための糸口としたい。</p>	
使用教材	テキスト	とくに定めない。
	参考文献	授業で指示する。
評価方法	前期と後期にそれぞれ筆記試験をおこなう。	
受講者に対する要望など	外国史概説Ⅱのみを後期から受講する者は、9月の第1時間目を欠席しないよう配慮されたい。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前期 (I)

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション。イスラーム教の六信五行について説明する。
2	ユダヤ教・キリスト教とイスラーム教の関係について理解する。これら3つの宗教は多くの共通点を持ち、その関係は重要な問題である。
3	預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、当時の商業都市メッカの社会について考える。
4	預言者の死後、彼の代理人としてのカリフ（ハリーフ）たちが支配した正統カリフ時代について考える。
5	ウマイヤ朝の歴史について考える。ヴェルハウゼンによる古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。
6	アッバース朝の歴史について考える。古典理論にみられる「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。
7	アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開について概観する。
8	エジプトのマムルーク朝について学ぶ。マムルーク軍人による支配、とくにイクター制と呼ばれる軍事制度が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
9	オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。
10	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代などについて検討する。
11	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について続けて考察する。ヨーロッパ世界が優勢となる経緯と、それによって形成された彼らの東洋観について検討する。
12	まとめを行なう。
備考	

### 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	イスラーム教の基本事項について確認する。後期から外国史概説Ⅱを受講する者へのオリエンテーションをかねる。
2	イスラームの教義の本質と、その土台であるコーラン（クルアーン）とハディースについて説明する。
3	中世イスラーム世界の学問と思想、および近代ヨーロッパのさきがけをなしたイスラーム科学について概説する。
4	イスラーム世界の学問の担い手であるウラマーについて、その知識人階層としての、政治権力との関係や社会的な役割について考える。
5	イスラーム神秘主義思想（スーフィーズム）について、その内容と、民衆の教化にはたした役割について検討する。
6	イスラーム世界の儀礼について、人々の日常生活におけるさまざまな慣習も含めて説明する。
7	イスラーム法（シャリーア）について内容を説明する。またそれにもとづく人々の社会生活について考える。
8	イスラーム世界における文学、芸術について概説する。
9	イスラーム世界の都市と社会生活について概観し、イスラームが都市の文明と呼ばれる意味を検討する。
10	近代ヨーロッパにおける帝国主義とイスラーム世界との関係について概述し、西洋の衝撃によってイスラーム世界内部にあらわれたさまざまな運動の方向性を考察する。
11	イスラーム諸国の成立と、それらが抱えるさまざまな問題について考える。
12	まとめを行なう。
備考	

科目名	外国史概説 III・IV (西洋史概説)	担当者名	赤井 彰
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>世界史の現代史と近代史をつなげてみるのが目標である。日本では政府の情報公開という考え方が弱く、現代史の研究を教育へというのでは消極さが先立っていた。「現代史」は関係者が生き残っていたりして「やりにくい」という、わかり易い説明が通用していた。大たい百年以上昔から以前だと「歴史的地平」といわれ、教科書なども比較的安心して書かれたわけである。従って「現代史」と「近代史」のつながりの悪さはほとんど構造的である。本講義ではこのことを示す史実を紹介する。</p>				
講義概要	<p>二十世紀末の現代は、激しく商品（市場）経済に参加する発展途上国とこれらを指導管理しようとする先進国の強い緊張で特徴づけられる。このことの説明や処理は、先進国の価値観にもとづいたのでは、多分成功しないと思われる。現代史は近代史のはじめに早くも、早熟な胎動を示しており、そのように見れば、教科書的に安定しているように見える近代の諸事件も別の見え方を示すかも知れない。つまり商品化、市場化の流れがはっきりとある。私たちは各国別の歴史・文化・名譽などを真面目に取扱うので、こういう勉強はギクシャク・ジグザグになる。一年間でできることは限られ、私としては飛びとびに史実を話す。板書するので、聴講者は自分でそれらを調べ直し（リコンファーム）してほしい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> 「西洋の歴史（近現代史編）」大下尚一編 ミネルヴァ書房  和田春樹「歴史としての社会主義」 岩波新書 </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・並木伸晃『宗教国家アメリカの「本能」を読み』 光文社</li> <li>・村上陽一郎「科学者とは何か」新潮選書</li> <li>・各種辞典類</li> <li>・ウォーラーステイン 「近代世界システム」 I、II、岩波書店</li> <li>・その他講義中に示す。</li> </ul> </td> </tr> </table>	テキスト	「西洋の歴史（近現代史編）」大下尚一編 ミネルヴァ書房 和田春樹「歴史としての社会主義」 岩波新書	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・並木伸晃『宗教国家アメリカの「本能」を読み』 光文社</li> <li>・村上陽一郎「科学者とは何か」新潮選書</li> <li>・各種辞典類</li> <li>・ウォーラーステイン 「近代世界システム」 I、II、岩波書店</li> <li>・その他講義中に示す。</li> </ul>
テキスト	「西洋の歴史（近現代史編）」大下尚一編 ミネルヴァ書房 和田春樹「歴史としての社会主義」 岩波新書				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・並木伸晃『宗教国家アメリカの「本能」を読み』 光文社</li> <li>・村上陽一郎「科学者とは何か」新潮選書</li> <li>・各種辞典類</li> <li>・ウォーラーステイン 「近代世界システム」 I、II、岩波書店</li> <li>・その他講義中に示す。</li> </ul>				
評価方法	<p>出席はとるが、「出席点」という考え方はしない。  西洋史概説は前期試験またはレポートを参考にして、後期試験で評価。  外国史ⅢとⅣは二単位ずつ別に評価する。</p>				
受講者に対する要望など	<p>講義は聞きっ放しだと忘れる。板書事項ぐらひはノートして、あとで調べ直すこと。図書館にしばらくこもること。私の話は忘れても、自分の知識はあとに残る。</p>				



## 年 間 講 義 予 定

### 前期 (Ⅲ)

週	主 要 テ ー マ
1	「西洋史」という日本特有の教科。時代区分。社会科としての世界史。
2	ルネサンス。大航海時代。身分制国家。宗教改革
3	公会議から国際会議。三十年戦争。王権神授説。身分制議会。
4	イギリス革命。反カトリック。囲み込み。フランス絶対主義。
5	オーストリア。プロイゼン。ロシア。
6	ジョン・ロー。南海泡沫。
7	イギリス産業革命。イングランド銀行
8	いわゆる「大西洋革命」。
9	フランス革命
10	ナポレオン。 スエーデン。 ウィーン体制。
11	国際的保守反動体制とされるウィーン体制。
12	予備。
備考	

### 後期 (Ⅳ)

週	主 要 テ ー マ
1	十九世紀の特徴。進化論と楽天主義。日本の参加。(日本はそれまでいなかったのか)
2	国民経済の観点。植民地の考え方。イギリス選挙法改正。中南米の独立
3	明治維新と帝国主義列強 南北戦争。ロシア農奴解放。
4	日露戦争と大正時代。シベリア出兵と米騒動。
5	第一次大戦とロシア革命。国際連盟
6	ロシア革命とファシズム
7	一九二九年大恐慌とロシア経済
8	いわゆる「人民戦線」。スペイン内戦。第二次国共合作。
9	日独伊防共協定。 第二次大戦。 冷戦からベルリンの壁撤去。 国際連合。 アフリカ諸国の独立。
10	予備
11	予備
12	
備考	

科目名	地理学概説	担当者名	山本 充
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>地理学において用いられてきた主要な概念を理解し、実際に様々な分野で、これらの概念を用いて地理学者がどのような研究を行っているのか展望することを通して、地理学的な見方、考え方を身につけることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>まず前期において、地理学における重要な概念である「地域」、「伝播」、「環境」、「統合」、「景観」を理解し、それぞれの概念の定義と応用、基礎的知識について学ぶ。これをふまえて後期では、幅広い地理学の分野の中で、これらの概念を用いて実際に地理学者が対象に対してどのようなアプローチをしているのか概観する。ここでは、人口、農業、政治、言語、宗教、民族、民族文化、大衆文化、都市がトピックとして取り上げられる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>とくに教科書は指定しない。毎回、資料を配布し、そこで参考文献を提示するので、それを参照されたい。理解を助けるために、地図帳を持参することをすすめる。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前後期2度のレポートと出席状況による。</p>		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要説明。主要概念の理解。地域 (1) : 地域の定義、地域区分の手法
2	地域 (2) : 地域構造の把握
3	伝播 (1) : 伝播の理論と類型
4	伝播 (2) : イノベーションの受容
5	環境 (1) : 環境論の変遷
6	環境 (2) : 地形の形成と分類
7	環境 (3) : 気候と植生、人間活動と気候変動
8	統合 (1) : 地理学におけるモデル構築
9	統合 (2) : 地理学における計量的手法
10	景観 (1) : 景観論の変遷
11	景観 (2) : 景観の読解法
12	主要概念のまとめ
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の課題の返却と寸評。前期の復習と後期の概要説明。
2	人口 : 世界の人口分布、人口移動、人口抑制策の伝播、人口の偏在と環境要因・文化要因、集落形態
3	農業 : 世界の農業様式、農耕起源と伝播、農業と環境、農業と民族、農業景観
4	政治 : 国家の形態と安定性、政治イデオロギーの伝播、地政学と環境論、投票パターンと経済社会的要因、国境の両側の地域の景観
5	言語 : 世界の言語の分布と伝播、言語の避難所としての環境、経済発展と言語の衰退、言語の表現としての地名
6	宗教 : 主要宗教の起源と現在の分布、宗教の性格と環境、宗教と環境の改変、宗教と経済・食習慣、生の景観・死の景観
7	民族文化 : 民族文化地域、民間療法、民族知識・民族分類、民族建築
8	大衆文化 : スポーツ・嗜好食品の地域、メディアと大衆文化の伝播・変容、大衆文化と環境破壊、エリート空間
9	民族 : 民族地域、民族移動と文化の伝播、居住地選択、民族と産業活動、民族と集落パターン
10	都市1 : 世界の都市地域、都市の内部構造、都市形態の発達、都市の拡大
11	都市2 : 都市の立地と環境、都市活動と環境変化、都市景観の知覚
12	地理学の応用について。後期のまとめ。
備考	

科目名	地誌学概説 I・II (地誌学概説)	担当者名	山本 充
-----	--------------------	------	------

講義の目標	<p>特定の地域を研究対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。ここでは、地誌学における重要な概念「地域」と地域の分析方法を理解した上で、これらを用いて事例地域をとりあつかうことを通して、地誌学における地域のみかたを身につけることを目的とする。</p>	
講義概要	<p>まず、地理学の中における地誌学の位置、ならびに地誌学における重要な概念「地域」を理解し、地域を扱う上で必要な文献や地図類の種類と利用法、地域の分析手法についても習得する。これらをふまえて、ヨーロッパを事例としてとりあげ、自然環境、民族と国家、都市と農村などとそれらの相互関係を考察することを通して、一般的な地域のみかたを学ぶ。</p>	
使用教材	テキスト	<p>とくに教科書は指定しない。毎回、資料を配布し、そこで参考文献を提示するので、それを参照されたい。理解を助けるために、地図帳を持参することをすすめる。</p>
	参考文献	
評価方法	<p>前後期2度のレポートと出席状況による。</p>	
受講者に対する要望など		

## 前期 (I)

## 年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要説明。地域概念の考察 (1): 地域概念の変遷、地域の定義
2	地域概念の考察 (2) 等質地域と機能地域
3	地域構造の把握 (1) 地域構造図、地域構造モデル
4	地域構造の把握 (2) 地域区分、地域と人間
5	地域分析の基礎 (1): 地域文献・資料・統計の所在と検索
6	地域分析の基礎 (2): 地図の種類と利用、主題図作成の基礎
7	地域分析の手法 (1): 現地調査の基礎
8	地域分析の手法 (2): 統計分析の基礎
9	地域分析の手法 (3): GIS 地理情報システムの基礎
10	事例地域ヨーロッパの位置と自然環境: 半島としてのヨーロッパ、気候と植生
11	ヨーロッパにおける民族のモザイク (1): 言語と宗教の伝播と分布
12	ヨーロッパにおける民族のモザイク (2): 少数言語集団の問題、前期のまとめ
備考	

## 後期 (II)

週	主 要 テ ー マ
1	前期の課題の返却と寸評。前期の復習と後期の概要説明。
2	ヨーロッパの国家と超国家組織 (1): 国家の分裂と統合
3	ヨーロッパの国家と超国家組織 (2): EU・国家・地域の関係の変化、国境の役割
4	ヨーロッパの都市 (1): 人口の集中と都市発達史
5	ヨーロッパの都市 (2): 都市の形態と機能
6	ヨーロッパの都市 (3): 外国人労働者と都市
7	もう一つのヨーロッパー農山村 (1): 伝統的農業と集落形態、民家
8	もう一つのヨーロッパー農山村 (2): 周辺農山村のすがた
9	もう一つのヨーロッパー農山村 (2): 都市近郊農村の変容
10	ヨーロッパの産業: 工業生産と人、もの、情報の流れ、資源と産業の発達
11	ヨーロッパの交通: 内陸河川の役割、高速道路と環境問題、高速交通時代
12	ヨーロッパの地域構造: ヨーロッパの東と西、南と北、中心と周辺
備考	

科目名	地理学調査法	担当者名	犬井 正・山本正三
-----	--------	------	-----------

講義の目標	<p>地理学では、自然地理学、人文地理学にかかわらず、フィールドワークが重要である。また地理教育でも自然・人文に関する地域調査を重視している。本講座は文献資料による調査法のみならず、フィールドワークを実施し、地域調査の立案・指導・評価の実際について学んでいく。</p>	
講義概要	<p>文献資料の収集法、質問紙の作成法、読図法、データ処理法などのインドアワークだけでなく、歩測図の作成などの野外実習などを経験した後に、2泊3日のフィールドワークを行う。フィールドワーク実習は、例年、前期の定期試験終了後に、福島県新甲子にある獨協大学研修所を拠点として実施している。</p>	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	特になし
評価方法	<p>実習レポートの結果および議義等への貢献度を総合的に判断する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>実習に参加できない者は、評価が不能であるため、選択しないこと。</p>	

前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等のオリエンテーションを行う。受講者多数の場合は、第1週出席者を優先する。
2	自然環境の調査法と利用可能資料の入手法について。
3	同 上
4	地図の活用法。
5	歩測図の作成原理と作成実習。
6	同 上
7	同 上
8	地域調査の計画と指導法について。 聞き取り調査法とアンケート項目の作成法など。
9	野外調査法の実際（バス巡検、土地利用調査などのフィールドワーク、各種施設の見学）。 前期定期考査直後実施の2泊3日の実習で振り替え。
10	同 上
11	同 上
12	収集資料の整理、活用と報告書の作成方法。
備考	

科目名	社会学概論	担当者名	有吉広介
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>中学・高校の社会科教育のなかで取りあげられる関係事項を中心として、現代の社会生活を理解するための基礎的な考え方を講義する。</p>		
講義概要	<p>集団生活と関連して、社会的存在としての人間の諸相を考えるための基本的な概念をまず取りあげ、そのなかで、人間、社会および文化の相互関係を考察する。ついで、社会生活の基本単位といわれる家族集団が、近代化のさまざまな過程のなかでどのように変化してきたかを問題にする。特に核家族化の問題点を考察する。引き続いて、近代から現代にわたって展開してきた社会の産業化、都市化、大衆化、官僚制化、学歴社会化、情報化、および福祉化の諸現象に逐次ふれながら、現代の社会問題の基礎を明かにする。最後に、今日解決をせまられている高齢社会の諸問題の背景に、現代社会のさまざまな構造的特質があることを指摘する。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを用意する。	
	参考文献	適時紹介する。	
評価方法	<p>前期および後期の終りにレポートを提出して貰い、評価する。</p>		
受講者に対する要望など			



## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	社会行動の構造
2	社会集団の構造と機能
3	人間、社会、文化の相互関係
4	家族の構造と機能
5	家族制度・核家族化
6	社会の産業化
7	職業社会・雇用社会
8	官僚制化
9	大衆社会
10	社会の階層化
11	日本人の「中」意識の背景
12	前期講義の補足
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	都市化
2	都市問題
3	新しいコミュニティ
4	学歴社会の性格
5	日本の近代化と学歴尊重
6	社会の情報化
7	社会の福祉化——生活の質の重視
8	日本人の生活時間の使い方
9	社会の高齢化
10	高齢社会に対する日本人の意識
11	高齢化社会への対応
12	後期講義の補足
備考	

科目名	哲学概説	担当者名	鹿毛 誠一
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>教師になる前の哲学、なってからのそして辞めてからもなお、自分の手掛りになる哲学の話をしたと考え。そして人は何らかの共通理解なしには生きられないのだから、主観的な人生観に尽きない哲学の学問性が、何の職業とか何の教科を選ぶ人にとっても役に立つようにと、西洋思想の流れを辿ってみる。その間に日本的及び現代的な考え方を交叉させて我々の視野を拡げよう。</p>	
講義概要	<p>自己と他者あるいは主観と客観の関係及び統一を問い求める観点から、東西文明の古典を話題に選ぶことになろう。それも諸君の学生生活がより一そう豊かになるようにとの期待からである。したがってつねに、いま、ここの問題意識を踏まえてからのことである。情報としての知識を活用する諸君自身が、いつでも反面では問われていることを忘れないように心掛ける。この「いつでも」では息がつまるから、話は面白く役に立つように進めたい。</p>	
使用教材	テキスト	<p>新訂「生と理性」：安本・鹿毛ら共著 晃洋書房 「知の文化と型の文化」：鹿毛著 創文社</p>
	参考文献	<p>最近書いた小論や随筆のようなものも、適宜にコピーして配布する。上のテキスト二冊も、その内容をすべて解説するのではない。受講のための便宜や「こやし」として活用して欲しい。</p>
評価方法	<p>前期はレポート、後期は定期試験での答案及び年間を通じて5、6回出欠をとり参考にする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義への質問や注問を期待する。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	「教師」にとって哲学は、その担当教科が何であるにしても、必須といえる学問であろう。これは人世観や世界観学、まして処世訓ということでもない。人として暮すのに、人間や人類の共通理解が不可欠の意味である。
2	この学問はまた、科学でも宗教でもない。体系的な「概論」も成立しなくて、みなそれぞれプラトンとかヘーゲルとかの固有名詞のついた哲学しかない。哲学の以上のような学問上の位置と意味から、話を始めよう。
3	万物の根源を求め始めたギリシアのターレスらの自然哲学
4	いわゆる詭弁家のソピストらとソークラテス
5	プラトンのイデア論
6	アリストテレスの「形相」と「質料」
7	アウグスチヌスの三位一体
8	西洋中世を通じての「普遍論争」
9	ルネッサンス期の哲学
10	デカルトの「我思うゆえに我在り」と主観・客観の二元論
11	ルソーの「自然へ帰れ」と社会契約説
12	カントの「批判」からの教育論や永遠平和論
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	ヘーゲルの弁証法の論理
2	フォイエルバッハの人間学的還元、マルクスの史的唯物論
3	キールケゴールの逆説弁証法と実存主義
4	ディルタイの自然科学対精神科学論、美型論や解釈学
5	ニーチェの積極的ニヒリズム
6	フッサールの現象学
7	ハイデガーの基礎存在論、時間論
8	ヤスパースの実存主義、包括者
9	ボルノーらの哲学的人間学、教育人間学
10	フランスの大戦後の構造主義や文化記号論
11	科学技術のパラダイムと我が国伝統の型との異同
12	東洋文化と西洋文化の発想のし方と目的の異同と 21 世紀展望
備考	

科目名	倫理学概論	担当者名	中島文夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>高等学校で「倫理」を教えるのに必要な基礎的教養を得させることを目標とする。あわせて、中学校において「道徳教育」を実践するための精神的基盤の確立にも資するよう配慮する。</p>	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理学とはどういう学問であるか。</li> <li>2. 学問の全体系の中でどういう位置を占めるか。</li> <li>3. 主要諸概念——この中で、思想史上重要な思想家の学説にも触れることになる。</li> <li>4. 現代における倫理的諸問題。</li> </ol>	
使用教材	テキスト	使用しない。ただし、レジュメのプリントを配布する。
	参考文献	随時指示する。
評価方法	<p>未定。(履修者の数が判明した後に考える) 出欠は毎回点検し、評価の一要素とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>欠席・遅刻を当然の権利と考えないこと。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	倫理学とは何か
2	人間存在の個別的原理と普遍的原理 (1)
3	人間存在の個別的原理と普遍的原理 (2)
4	主体 (1)
5	主体 (2)
6	主体 (3)
7	共同体 (1)
8	共同体 (2)
9	共同体 (3)
10	規範 (1)
11	規範 (2)
12	規範 (3)
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	価値 (1)
2	価値 (2)
3	価値 (3)
4	道徳意識 (1)
5	道徳意識 (2)
6	徳と義務
7	行為
8	自由 (1)
9	自由 (2)
10	愛
11	生と死
12	現代社会の倫理的諸問題
備考	

科目名	宗教学概論	担当者名	鈴木康治
-----	-------	------	------

講義の目標	宗教とは何かという問いに答えるべく、東西の宗教の現実をみつめ宗教に関わる知識を学ぶにある。	
講義概要	講義予定を参考にされたい。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	授業時に提示する。
評価方法	年一回の、ノート持ちこみのテストによる。	
受講者に対する要望など	出席をとるので出席に努められたい。私語は問題外。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	概要の説明
2	宗教とは何か 1、
3	同上 2、
4	宗教学の諸問題 1、
5	同上 2、
6	日本の宗教事情 1、
7	同上 2、
8	年中行事 1、
9	同上 2、
10	通過儀礼の諸問題 1、
11	同上 2、
12	同上 3、
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期概要のまとめ
2	祭りの事例 1、
3	同上 2、
4	同上 3、
5	祭りと現代 1、
6	同上 2、
7	社会と宗教（集団） 1、
8	同上 2、
9	タブーと戒律
10	修行 1、
11	同上 2、
12	宗教の規定
備考	

科目名	図書館通論	担当者名	三浦逸雄
-----	-------	------	------

講義の目標	司書課程科目の内容を体系的にできるように、図書館その他の情報サービス機関についての基本的な概念と知識を学ぶ。併せて、図書館情報学の学習・研究方法の基礎についても習得する。		
講義概要	図書館情報学入門の役割を果たす授業として、現代社会における図書館その他の情報サービス機関の意義と役割を広く様々な視点から検討する。授業内容は、「図書館とは何か」、「図書館の種類」、「図書館の基本的機能」、「図書館員の役割」、「図書館情報学の対象と領域」といった項目から構成される。		
使用教材	テキスト	A：長澤雅男・戸田慎一『図書館学研究入門 意義と方法』（増補版）日本図書館協会 B：長澤雅男・戸田慎一『図書館学研究入門 領域と展開』日本図書館協会	
	参考文献	授業初回に参考文献リストを配布する。また、各回の授業においても関連文献を適宜紹介する。	
評価方法	初回の授業で説明する。		
受講者に対する要望など			



前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：講義概要、テキスト、参考文献、評価方法について説明する。
2	図書館とは何か：社会における図書館の役割と機能について説明する。
3	図書館の種類（1）：国立図書館について理念、制度、実態を中心に説明する。
4	図書館の種類（2）：公共図書館について理念、制度、実態を中心に説明する。
5	図書館の種類（3）：大学図書館、学校図書館について理念、制度、実態を中心に説明する。
6	図書館の種類（4）：専門図書館、特殊図書館について理念、制度、実態を中心に説明する。
7	図書館の基本的機能（1）：図書館の資料収集・組織機能について説明する。
8	図書館の基本的機能（2）：図書館の資料保管・提供機能について説明する。
9	図書館員の役割（1）：図書館員の専門性、わが国における図書館司書職制度について検討する。
10	図書館員の役割（2）「図書館の自由」、「図書館員の倫理綱領」について検討する。
11	図書館情報学の対象と領域（1）：図書館情報学研究の対象と領域を書誌学や情報科学などの隣接分野との関連で論じる。
12	図書館情報学の対象と領域（2）：図書館情報学の学習・研究方法とツールを紹介する。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	図書館資料論	担当者名	海野 敏
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>人類の知的活動を支えているのは、情報、知識を何らかの方法で記録した紙のあつまり（図書、雑誌、新聞など）や合成樹脂のかたまり（磁気テープ、フロッピーディスク、CDなど）である。本講義では、このような紙のあつまりや合成樹脂のかたまり、すなわち「資料」と呼ばれる情報メディアについて学習する。資料のなかでも、図書館で収集されている資料およびこれから収集されるであろう資料＝「図書館資料」を中心に据えて、それらに関する基本的な知識を獲得することを目標とする。</p>		
講義概要	<p>講義は、まず多種多様な情報メディアの中で図書館資料がどのような位置を占めているか明らかにする。その上で、以下の三つの視点を設けて図書館資料論を展開する。第1の視点は資料の分類である。図書館資料をいくつかのタイプに分け、個別にその特徴を解説する。ここでは、伝統的な図書館資料である図書、雑誌、マイクロ資料等だけでなく、今日新たに登場した図書館資料についてもできるかぎり検討を加える。第2の視点は資料の流通である。とりわけ、わが国の出版流通の仕組みとその実態を、統計資料等を使って解説する。第3の視点は資料の収集である。図書館における資料の収集・整理・保管＝「蔵書構築」について、その理論と課題を選択的に学習する。</p>		
使用教材	テキスト	使用せず	
	参考文献	授業時に必要に応じて紹介	
評価方法	授業初回到説明		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のオリエンテーションを行う。何を何のためにどのように学ぶのか、本講義の目的と方針を示し、半年間の授業のスケジュールを説明する。また、評価方法についても説明する。
2	資料とメディアについて以下の事項を学習する。1. 「情報」の定義、2. 情報、情報メディア、資料の関係、3. 多様な情報メディアの分類、4. 図書館資料の定義とその分類。
3	図書について以下の事項を学習する。1. 図書の定義、2. 図書の種類と特徴、とりわけ単行書、多巻物、シリーズについて、3. 図書の物理的構成。
4	逐次刊行物について以下の事項を学習する。1. 逐次刊行物の定義、2. 逐次刊行物の種類と特徴、とりわけ雑誌と新聞について。
5	逐次刊行物と学術情報について以下の事項を学習する。1. 学術情報の流通における逐次刊行物の機能、2. 学術情報に特有の逐次刊行物のタイプ。
6	マイクロ資料について以下の事項を学習する。1. マイクロ資料の定義、2. マイクロ資料の種類と特徴、3. 資料のマイクロ化の意義。
7	特殊な図書館資料として、ファイル資料、視聴覚資料、視覚障害者向け資料、官公庁刊行物、地域資料、貴重書などについて学習する。
8	新しい図書館資料として、電子出版物について学習する。とりわけ、フロッピーディスク、CD-ROM、光ディスクなどの情報メディアについて検討する。
9	資料の流通と加工について以下の事項を学習する。1. 生産から利用へいたる流通のプロセス、2. 学術情報の流通サイクル、3. 資料流通の阻害要因、4. 資料の加工のいくつかのタイプ。
10	出版流通について以下の事項を学習する。1. わが国の出版業界の規模、2. 出版流通のさまざまなルート、3. 出版流通を支える制度、とりわけ再販制と委託販売制について、4. 出版取次の機能。
11	蔵書構築について以下の事項を学習する。1. 図書館における蔵書構築の典型的なプロセス、2. 資料選択の意義と目的、3. 選書理論の歴史的展開。
12	知的自由と図書館について以下の事項を学習する。1. 「図書館の自由」とは何か、2. 検閲と出版統制の歴史、3. 出版界における差別と猥褻の問題。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	参考調査論	担当者名	小田光宏
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>図書館に寄せられる利用者からの情報要求は、質問の形態をとることが一般的であり、この質問はレファレンス質問とよばれる。この授業ではレファレンス質問に回答できるための技術と知識に精通することを主要な目的とする。もちろん前提として、この技術と知識を包含するレファレンス・サービスの原理を理解することも目標になる。</p>		
講義概要	<p>図書館の情報提供サービスの中心に位置付けられるレファレンス・サービスの概要を学ぶとともに、さまざまな情報源に精通することを目指す。授業の大部分は、技術的な内容を扱うので、受講者が授業に参加して進行する〈演習形式〉によって行う。また、図書館における情報や文献の探索実習課題を設定し、その技術に習熟できるよう指導する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>A. 長澤雅男『情報源としてのレファレンス・ブックス 新訂版』日本図書館協会 1994 B. 長澤雅男『問題解決のためのレファレンス・サービス』日本図書館協会 1991</p>	
	参考文献	<p>長澤雅男『情報と文献の探索 第3版』丸善 1994</p>	
評価方法	<p>前期・後期の定期試験（各30%）、実習課題1～4（20%）、実習課題5（10%）、演習形式授業への参加（10%）を、かっこの割合に基き合計して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>演習形式の授業とは、ただ単に出席していればよいという授業形式ではない。この授業への参加とは、あらかじめ設定された演習テーマについて、調査したり検討した上で、意見を発表して交換することを指す。</p>		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：年間予定、提出課題、評価基準、テキストの使用方法、参考文献について詳細に説明するとともに、授業の進め方について、具体的な指示を行う。[講義形式]
2	レファレンス・サービス概説(1)：レファレンス・サービスの定義、構造、関連諸事項について解説する。[講義形式→テキストBI部1、2章]
3	レファレンス・サービス概説(2)：サービスの内容、情報源の構成と評価について解説する。[講義形式→テキストBI部2、3章]
4	レファレンス・サービス概説(3)：レファレンス・プロセス、質問の受付と応答の諸技術について解説する。[講義形式→テキストBI部4、5章]
5	レファレンス・サービス概説(4)：探索方略の策定と実行、回答の提供方法について解説する。[講義形式→テキストBI部6～8章]
6	レファレンス・サービス概説(5)：図書館におけるレファレンス・サービスの実態について、事例を紹介しながら、その問題点を検討する。[演習形式]
7	レファレンス・ブック(1)：レファレンス・ブックの種類を学び、評価する方法について検討する。[演習形式→テキストA1章]
8	レファレンス・ブック(2)：〈レファレンス・ブックのガイド〉と〈書誌の書誌〉を検討し、レファレンス・ブックの広がりについて学ぶ。[演習形式→テキストA1章、BII部1章]
9	探索実習(1)：レファレンス質問に基づいて、レファレンス・ブックの探索を行う。
10	レファレンス・ブック(3)：〈よみ〉をテーマとする。ことば、人名、地名、その他のよみに関する情報源を検討する。[演習形式→テキストA2、5～7章、BII部2、5～7章]
11	レファレンス・ブック(4)：〈ことば〉をテーマとする。言語・文字に関する情報源を検討する。[演習形式→テキストA2章、BII部2章]
12	探索実習(2)：レファレンス質問に基づいて、ことばに関する情報を探索する。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	レファレンス・ブック(5)：〈ことがら〉をテーマとする。百科事典から各種専門事典（歴史事典、人名事典、地理・地名事典を含む）への広がりについて検討する。[演習形式→テキストA3～6章、BII部3～7章]
2	レファレンス・ブック(6)：〈時事情報〉をテーマとする。カレントな情報の探索方法を検討する。[演習形式→テキストA4、8章、BII部4、8章]
3	レファレンス・ブック(7)：〈人物情報〉をテーマとする。人物に関する情報の収集について検討する。[演習形式→テキストA6～8章、BII部6～8章]
4	レファレンス・ブック(8)：〈扱いにくい情報〉をテーマとする。統計情報、数値情報、地図情報、画像情報などを検討する。[演習形式→テキストA3～6章、BII部3～6章]
5	探索実習(3)：レファレンス質問に基づいて、さまざまな事実情報を探索する。
6	レファレンス・ブック(9)：〈図書情報〉をテーマとする。図書に関する情報源について検討する。[演習形式→テキストA7章、BII部7章]
7	レファレンス・ブック(10)：〈雑誌記事情報〉をテーマとする。雑誌と雑誌記事の情報源について検討する。[演習形式→テキストA8章、BII部8章]
8	探索実習(4)：レファレンス質問に基づいて、文献に関する情報を探索する。
9	データベース(1)：CD-ROM媒体のデータベースとレファレンス・ブックを比較して、その相違点を明確にするとともに、データベース検索の基礎的技術を検討する。[演習形式]
10	データベース(2)：CD-ROM媒体のデータベースとレファレンス・ブックを比較して、その相違点を明確にするとともに、データベース検索の基礎的技術を検討する。[演習形式]
11	データベース(1)：CD-ROM媒体のデータベースとレファレンス・ブックを比較して、その相違点を明確にするとともに、データベース検索の基礎的技術を検討する。[演習形式]
12	探索実習(5)：やや高度なレファレンス質問に基づき、各種の情報を探索する。
備考	

科目名	資料目録法	担当者名	三井幸子
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>図書館における資料組織化の目録作成について、オンライン目録作業を視野に据えた基本的知識や考え方を学ぶことを目標とする。併せて演習を通じて、目録作成の基本的手法を修得する。</p>	
講義概要	<p>図書館における目録作成について、まず目録と目録規則の現在までの経緯を概説する。次に、和書・洋書について書誌記述の方法を説明し、これをふまえて目録作業の演習を行う。さらに、目録の標準化や書誌ユーティリティなど目録業務をとりまく仕組みを取り上げ、最後に利用者の視点も交えてオンライン目録の検討を行う。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	<p>評価は前後期各1回のレポートと授業への参加度によって決定する。</p>	
受講者に対する要望など		

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 授業方針の説明 参考文献の紹介など
2	資料目録法とは 資料組織とは (図書館業務における資料組織および目録作業について) 目録とは 用語解説
3	目録と目録規則の進化(1) 媒体の進化と目録形態の進化 (冊子体目録～オンライン目録)
4	目録と目録規則の進化(2) MARC の概要
5	目録と目録規則の進化(3) 目録規則の進化と概要 (日本目録規則、英米目録規則)
6	書誌記述の方法(1) 図書の書誌的構成と書誌記述に必要な分析
7	書誌記述の方法(2) 和書…日本目録規則 1987 年版
8	書誌記述の方法(3) 洋書…英米目録規則 1988 年版
9	書誌記述の方法(4) 標目と排列 タグ付けとインデクシング
10	目録演習和書(1)
11	目録演習和書(2)
12	前期授業のまとめ 質疑応答
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	目録演習和書(3)
2	目録演習洋書(1)
3	目録演習洋書(2)
4	目録業務の実際——NACSIS-CAT による目録業務の仕組みや使用ツールの紹介(1) NACSIS-CAT の概要
5	目録業務の実際——NACSIS-CAT による目録業務の仕組みや使用ツールの紹介(2) 和書・洋書・典拠ファイル作成の実際
6	目録の標準化と書誌調整 書誌調整の歴史と現状 標準化の意義と様々な規準・規格について
7	書誌ユーティリティ(1) 書誌ユーティリティの機能 共同目録作業 学術情報センターの目録所在サービス
8	書誌ユーティリティ(2) 海外の書誌ユーティリティ (OCLC, UTLAS, WLN, RLIN)
9	図書以外の資料の組織化 逐次刊行物 マイクロ資料 視聴覚資料等
10	オンライン目録の現状と課題(1) 様々なオンライン目録の紹介
11	オンライン目録の現状と課題(2) オンライン目録の課題と展望
12	授業のまとめ 図書館における目録作成者の要件について
備考	

科目名	資料分類法	担当者名	徳村泰弘
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>講義と演習を通して、図書資料の分類にかかわる基本的な理論の理解と実務的な知識の習得を目標とする。また、主題検索のための、もう一つの方法である件名法についても、その原理、技法などの基礎的事項について学ぶ。</p>	
講義概要	<p>授業の前半においては、図書館サービスにおける資料組織化の意義と目的を把握させた上で、資料分類の意義と効用、資料分類の特異性、ツールとしての図書分類表の要件、内外の主要な分類表の沿革・構造・特徴など、資料分類に関する理論的な側面を概説する。後半では、我が国の標準分類法である日本十進分類法（NDC）について詳説し、次いで7週前後を分類作業の演習にあてる。この演習を通して、図書の分類における理論と実際の総合的・統一的な理解を図る。また、言語による主題検索の一技法である件名法についても、基本件名標目表（BSH）を用いて解説する。</p>	
使用教材	テキスト	日本十進分類法 新訂9版 日本図書館協会 1995
	参考文献	最初の授業の配布資料「参考文献」を参照
評価方法	<p>評価は前・後期2回の試験成績と演習等における授業への参加度によって決定する。</p>	
受講者に対する要望など		



## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	当科目の授業方針、受講上の留意点、評価方法等の説明並びに配布資料に基づく参考文献の紹介を行う。
2	資料組織化の意義と目的について考える。図書館を構成する三要素、資料組織化の過程、分類と目録の関係などにふれる。
3	分類一般の基礎理論を学ぶ。概念と名辞、内包と外延、類概念と種概念、分類と区分、人為分類と自然分類などにふれる。
4	知識の分類と図書館の分類の関係について考える。両者の相違点、図書館分類の特異性等にふれる。
5	図書館分類の意義と効用について考える。図書館分類の定義、図書館の主題と形式、図書館分類の機能と効果にふれる。
6	資料分類の歴史を辿る。書誌分類から書架分類への移行、両者の利点と問題点等について考える。
7	図書館分類表の意義と機能及び図書館分類表の基本的要件について考える。
8	図書館分類表における記号法について考える。分類記号の意義と機能、その望ましい条件、十進記号法と非十進記号法の比較などにふれる。
9	図書館分類表の種類について学ぶ。標準分類表の意義と効用、列举型分類表と分析合成型分類表の比較、検討に主眼をおく。
10	国内外の主要な図書館分類表について学ぶ。配布資料に基づいて、各分類表の沿革、組織と構成、特徴などにふれる。
11	日本の標準分類法である日本十進分類法に関する一般的な知識を習得する。その沿革と現状、組織と構成、助記法などにふれる。
12	前期授業のまとめ、質疑応答、前期定期試験に関する説明を行う。
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	日本十進分類法における分類作業上の基礎的事項を習得する。主題の把握、分類記号付与上の留意点、分類規程などにふれる。
2	日本十進分類法による分類作業の演習を行う。助記法の理解と補助表の使用法に主眼をおく。
3	日本十進分類法による分類作業の演習を行う。一般分類規程の意義とその必要性の理解に主眼をおく。
4	日本十進分類法による分類作業の演習を行う。 000 総記～100 哲学・宗教、における分類上の問題点と特殊分類規程について考える。
5	日本十進分類法による分類作業の演習を行う 200 歴史～300 社会科学、における分類上の問題と特殊分類規程について考える。
6	日本十進分類法による分類作業の演習を行う。 400 自然科学～600 産業、における分類上の問題点と特殊分類規程について考える。
7	日本十進分類法による分類作業の演習を行う。 700 芸術～900 文学、における分類上の問題点と特殊分類規程について考える。
8	図書館記号法と別置法を学ぶ。図書館記号の意義と目的についてふれ、「日本著者記号法」による実習を行う。
9	主題検索における件名目録法について学ぶ。件名目録法の意義、分類法との関係、件名標目表における語彙統制、シソーラスなどにふれる。
10	「基本件名標目表」の構成と使用法について学ぶ。同標目表による実習も行う。
11	集中・共同目録作業の意義とその諸形態を主題検索の立場から考える。
12	当科目のまとめ、質疑応答、学年末定期試験に関する説明を行う。
備考	

科目名	図書館活動論	担当者名	三浦逸雄
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>図書館の利用者サービスに焦点をあて、その種類、概念、方法について学習する。また、わが国の図書館における利用者サービスの実態を検討し、その問題点を探る。</p>	
講義概要	<p>図書館サービスは、資料収集・組織化といったテクニカル・サービスと資料や情報を利用者に提供するパブリック・サービスに大別することができる。前者は後者を実現するための基礎的な支援機能であり、この二つのサービスは相互に密接な関係を持つものであるが、本講義では、利用者と図書館（員）が直接出会う場である後者の活動を取り上げる。利用者サービスの理念、種類、方法、計画、評価等において国内外の事例を通して解説する。</p> <p>受講者自身が図書館を訪れて、実際にサービスを観察したり、評価したりできるような機会を設けたい。</p>	
使用教材	テキスト	<p>A：長澤雅男・小田光宏共著『利用者サービスと利用者教育』雄山閣</p> <p>B：長澤雅男・戸田愼一共著『図書館学研究入門領域と展開』日本図書館協会</p>
	参考文献	<p>関連文献は授業において適宜紹介する。</p>
評価方法	<p>初回の授業で説明する。</p>	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：講義概要、テキスト、参考文献、評価方法について説明する。
2	利用者サービスの意義：利用者サービスの目的、機能、種類について説明する。
3	資料提供サービス（1）：閲覧・貸出サービスの意義と方法を検討する。
4	資料提供サービス（2）：リクエスト・サービス、相互貸借サービス、館外サービスの意義と方法を検討する。
5	情報提供サービス（1）：レファレンス・サービスの意義と種類について概説する。
6	情報提供サービス（2）：各種情報サービスの意義と方法について検討する。
7	図書館サービスの計画と評価（1）：サービス計画の策定プロセスについて概説する
8	図書館サービスの計画と評価（2）：図書館サービス評価の意義と方法について解説する。
9	集会活動：集会活動の意義と問題点を検討する。
10	対象別サービス（1）：児童・青少年、高齢者を対象としたサービスの意義と方法を解説し、問題点を検討する。
11	対象別サービス（2）：障害者サービス、多文化サービスの意義と方法を解説し、問題点を検討する。
12	利用教育とPR：図書館利用教育および図書館広報活動の概要について解説する。
備考	

科目名	(後) 青少年の読書と資料	担当者名	宮部 頼子
-----	---------------	------	-------

講義の目標	<p>児童青少年の読書の問題を、青少年の発達段階と資料の関係、資料の種類と特性、資料の選択と評価、地域社会との関わりなど様々な側面から検討する。近隣の図書館児童室見学、ブックトーク実習も含まれる。</p>		
講義概要	<p>児童青少年の読書の問題を、青少年の発達段階と資料の関係、資料の種類と特性、資料の選択と評価、地域社会との関わりなど様々な側面から検討を加えていく。近隣の図書館児童室を見学し、児童図書館員によるフローワーク（お話し、読みきかせ等）を観賞させてもらい、授業においてもブックトーク実習を試みる。また、表現の自由と差別問題、図書館と知的自由の問題などを様々な角度から検討する。</p>		
使用教材	テキスト	なし（配布資料）	
	参考文献		
評価方法	レポート		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーションとして、授業方針の説明、評価方法の説明などを行う。
2	児童青少年と読書に関して、各自のこれまでの読書習慣および図書館との関わりをふり返りながら考える。配布資料参照。
3	児童青少年の読書興味について、その発達段階と年齢別資料の特性を参考にしながら検討する。配布資料参照。
4	児童青少年資料の種類と特性について考える。さらにヤングアダルトサービスおよびマンガの取り扱いについても検討を加える。各自の最寄公共図書館におけるマンガの扱いについて調査を行いレポートにまとめる。
5	児童青少年の読書と地域社会について、児童図書館の活動に焦点を当てて考える。配布資料参照。
6	児童青少年の読書と地域社会に関して、近隣図書館の児童室を見学し、児童図書館員によるお話、読みきかせ等を観賞する。
7	児童青少年の読書活動とその指導に関して、グループ作業によりブックトークを実際に行いながら学んでいく。配布資料参照。
8	ブックトークの対象年齢およびテーマ設定と全体構成、ブックリスト作成などの作業を行う。
9	ブックトークのグループ発表を行う。(前半グループ) 相互評価および全体討議も行う。
10	ブックトークのグループ発表を前回に引き続き行う。(後半グループ)
11	児童青少年の読書と資料の評価の例として、「ちびくろサンボ」をとり上げる。各版の読み比べを行い、グループディスカッションを通して様々な角度から検討を加える。配布資料参照。各自の考えをレポートにまとめる。
12	全体のまとめを行う。レポート提出。ビデオで米国の公共図書館における児童サービスの模様を観賞する。
備考	

科目名	図書及び図書館史	担当者名	海野 敏
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>本講義の目的は、数千年にわたる人類の歴史において、資料と図書館がどのように生成、変化、発展してきたかを理解することである。数十万年前に言語を獲得した人類は、それを物理的に記録することを学び、数千年前、最も原始的な「資料」が出現した。さらに人類は資料を蓄積することを学び、およそ3千年前には「図書館」の原型と考えられる資料コレクションが出現している。講義では、それ以降、近代的な公共図書館が成立した19世紀に至るまでの資料史と図書館史を、ほぼ時代に沿って学習する。</p>		
講義概要	<p>講義は、時代に沿って、古代、中世、近世、近代の順に、それぞれ資料史と図書館史を交互に説明する。対象とする地域は基本的に欧米圏であるが、古代と中世は必要に応じて中国、朝鮮、西アジア、北アフリカの諸地域に言及する。特定のテキストは用いないが、関連する資料を毎回配布し、さらに可能なかぎり歴史的な資料の写真を授業中に回覧する。</p>		
使用教材	テキスト	使用せず	
	参考文献	授業時に必要に応じて紹介	
評価方法	授業初回到説明		
受講者に対する要望など	必要に応じて、高校世界史の教科書、歴史年表、歴史地図などを参照すること		

## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のオリエンテーションを行う。何を何のためにどのように学ぶのか、本講義の目的と方針を示し、半年間の授業のスケジュールを説明する。また評価方法についても説明する。
2	古代の資料について以下の事項を学習する。1. 古代オリエントの資料、2. 古代中国の資料、3. 古代西洋における羊皮紙と冊子体の登場、4. 西洋資料史における紀元4世紀の意味。
3	古代の図書館について以下の事項を学習する。1. 古代オリエントと古代ギリシアの神殿図書館、2. ヘレニズム期のアレクサンドリア図書館、3. 古代ローマの個人図書館。
4	中世の資料について以下の事項を学習する。1. 西欧における写本文化の成立とその実態、2. 近代以前の中国における資料の素材と形態の変遷。
5	中世の図書館について以下の事項を学習する。1. ビザンティン帝国の図書館、2. イスラムの図書館、3. 中世西欧における修道院図書館の隆盛、4. 中世西欧における大学図書館の成立。
6	紙の発明と伝播について以下の事項を学習する。1. 中国における製紙法の発見と確立、2. 製紙法の西方への伝播、3. 製紙法の東方への伝播。
7	印刷術の発明と伝播について以下の事項を学習する。1. 印刷術の萌芽、2. 中国における木版印刷術の発明と展開、3. グーテンベルグによる活版印刷術の発明、4. 活版印刷術の伝播とインキュナブラ。
8	16世紀西欧の図書館について以下の事項を学習する。1. 修道院図書館の衰退、2. 宗教改革とドイツにおける図書館の発達、3. フランスの王室図書館と法定納本制度の成立。
9	17世紀西欧の図書館について以下の事項を学習する。1. ドイツにおける図書館の衰退、2. 王室図書館の発達、3. 英仏における政治家の図書館、4. ノーデとライプニッツの図書館思想。
10	18世紀西欧・北米の図書館について以下の事項を学習する。1. フランクリンのフィラデルフィア図書館会社と会員制図書館の登場、2. 大英博物館図書館の設立、3. ゲッチンゲン図書館の設立。
11	16世紀～20世紀の資料の発展について以下の事項を学習する。1. 産業革命と製紙技術、印刷技術の発達、2. 視聴覚資料の登場、3. マイクロ資料の普及、4. コンピュータの登場と情報メディアの多様化。
12	19世紀西欧・北米の図書館について以下の事項を学習する。1. 各国中央図書館の設立、2. 近代公共図書館の萌芽、3. 近代公共図書館の成立、4. 図書館界における1876年の意味。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	(前) 図書館の施設と設備	担当者名	宮部 頼子
-----	---------------	------	-------

講義の目標	<p>図書館施設、図書館建築の構成と計画、図書館システムと施設、家具、備品、サイン計画などに関する基礎的な理解を深めることを主なねらいとしている。身近な建築、施設、設備の評価を試みる。</p>	
講義概要	<p>図書館施設、図書館建築の構成と計画、図書館システムと施設、家具、備品、サイン計画などに関する基礎的な理解を深めることを主なねらいとしており、身近な図書館建築、施設、設備を実際に調査し、その評価も試みる。また日本図書館協会建築賞受賞作品なども取り上げて検討を加える。授業はグループディスカッションを多く採り入れ、受け身の授業を極力排して学生諸君の参加を基本に展開される予定。</p>	
使用教材	テキスト	栗原嘉一郎編著「図書館の施設と設備」(現代図書館学講座 13) 東京書籍
	参考文献	授業時に紹介
評価方法	レポート	
受講者に対する要望など		



## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	教科書の紹介と活用方法、授業方針の説明、評価方法の説明などを行う。
2	図書館の施設とは何かを、図書館ネットワークと施設計画に焦点を当てながら考える。教科書第1章～2章、配布資料参照。
3	公共図書館の地域計画の具体例をとり上げながら、図書館システムと施設について考える。教科書第1章～2章、配布資料参照。
4	近隣の図書館を見学し、図書館の施設・設備の観点から考察を加える。(レポート提出)
5	図書館建築の構成と計画に関して、全体計画と利用者動線等について考える。教科書第3章、配布資料参照。
6	図書館建築の構成と計画に関して、障害者対策および点字図書館をとり上げて検討する。教科書第3章、配布資料参照。
7	図書館の家具、備品、サイン計画に関して、カウンターと書架をとり上げ、身近な図書館を例にして検討を加える。教科書第4章、配布資料参照。
8	前回のカウンターと書架に関してグループディスカッションを行い、相互に意見交換を行った上、全体討議に入る。(配布資料参照)
9	図書館の建設に関して、企画から建設までのプロセスを検討する、教科書第5章、配布資料参照。
10	複合施設をとり上げて検討を加える。その長所、短所を含め様々な観点から考えてゆく。教科書第5章、配布資料参照。
11	図書館建設の事例研究として、最近の日本図書館協会建築賞受賞作品その他をとり上げ、グループディスカッションを通して評価分析を加える。教科書第7章、配布資料参照。
12	全体のまとめとして各自が公共図書館建築の事例研究を行い、レポートにまとめて提出する。ビデオで米国公共図書館の観賞を行い検討を加える。
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	(後)資料整理法特論	担当者名	小田光宏
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>情報と文献のコントロールの理論と技術を学ぶことを目標とするが、とりわけネットワーク環境下における問題に焦点を合わせる。また、情報ネットワークにおいて利用が普及しつつあるオンライン検索やインターネットなどの技能を理解することも目標に設定する。</p>		
講義概要	<p>授業は、「情報と文献のコントロール」と「オンライン検索の実際」の二部からなる。「情報と文献のコントロール」では、標準化と規格、メディアとユーティリティの問題を検討する。「オンライン検索の実際」では、NACSIS-IR や DIALOG の検索、さらにインターネットを用いた情報検索の広がりについて、デモンストレーションによって紹介しながら、その技術を指導する。</p>		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	戸田愼一ほか『インターネットで情報探索』日外アソシエーツ 1994	
評価方法	<p>試験を実施する。また、毎回の授業の積み重ねによってはじめて理解が可能な技術を扱うので、平常点（遅刻をしない出席と授業への参加）を重視する。具体的には、試験を60%、平常点を40%の割合とし、総合して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業ではきわめて実際的な知識と技術を扱う。したがって、出席して作業に参加することが重要である。なお、原則として前期開講「情報管理」を同時に履修する者に受講を許可する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	メディアの比較(1)：冊子体の情報源と、CD-ROM、オンライン・データベースを比較して、それぞれの特徴を明らかにする。
2	メディアの比較(2)：上記の三つのメディアの使い分けの問題と実状について検討する。
3	書誌コントロール(1)：書誌コントロールの基本概念について検討するとともに、発展の経緯について解説する。また、ネットワークについても論じる。
4	書誌コントロール(2)：書誌ユーティリティの事例を紹介しながら、標準化と規格の問題について検討する。また、オンライン検索との関係を説明する。
5	オンライン検索(1)：デモンストレーション形式で、書誌データベースの検索技術について検討する。
6	オンライン検索(2)：デモンストレーション形式で、書誌データベースの検索技術について検討する。
7	オンライン検索(3)：デモンストレーション形式で、非書誌データベースの検索技術について検討する。
8	オンライン検索(4)：デモンストレーション形式で、非書誌データベースの検索技術について検討する。
9	インターネット(1)：インターネットを用いた情報検索の可能性について、デモンストレーション形式で検討する。
10	インターネット(2)：インターネットを用いた情報検索の可能性について、デモンストレーション形式で検討する。
11	情報検索の評価：検索結果の評価について、適合性と適切性、再現率と精度、検索費用の諸問題を検討する。
12	
備考	

科目名	(前) 情報管理	担当者名	小田光宏
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>コンピュータを用いた情報の検索に関する基本的な知識と理論、ならびに、こうした技術が発展した社会的な背景について理解することを目標とする。とりわけ、近年ユーザー・フレンドリーな仕組とともに普及しつつある CD-ROM 検索に焦点を合わせ、検索デモンストレーションを行なって、その技術の習熟につとめる。</p>	
講義概要	<p>授業は大きく「情報検索の基礎」と「CD-ROM 検索の実際」とに分けて展開する。「情報検索の基礎」では、現代社会と情報検索の可能性、データベース、索引言語、検索式、検索評価などの諸問題を扱う。「CD-ROM 検索の実際」では、いくつかの CD-ROM ソフトのデモンストレーションを実施し、実習を交えてその技術を指導する。</p>	
使用教材	テキスト	使用しない。
	参考文献	
評価方法	<p>試験を実施する。また、毎回の授業の積み重ねによってはじめて理解が可能な技術を扱うので、平常点（遅刻をしない出席と授業への参加）を重視する。具体的には、試験を 60%、平常点を 40% の割合とし、総合して評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業ではきわめて実際的な知識と技術を扱う。したがって、出席して作業に参加することが重要である。なんらかの事情で欠席した場合には、次回までに補っておくことが不可欠である。受講希望者は、初回の授業に必ず出席すること。</p>	

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業予定、授業方法、評価基準などの注意事項について説明する。
2	情報検索の基本概念：情報検索の定義と種類、歴史と現状について解説する。また、情報検索システムの構成要素について説明する。
3	データベース（1）：データベースの定義と種類、流通と組織について、事例を紹介しながら解説する。また、ビデオ「データベース検索入門」に基づいて整理を行う。
4	データベース（2）：データベースの構造について、コンピュータ化されていない情報源の構造と比較しながら、理解を深める。
5	情報検索理論（1）：索引言語に関して、事前結合方式と事後結合方式、自然語と統制語、シソーラスの役割について説明する。
6	情報検索理論（2）：検索式に関して、各種の演算子の特徴と使い分けについて説明する。また、部分文字列一致に基づく検索式も検討する。
7	CD-ROM 検索（1）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
8	CD-ROM 検索（2）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
9	CD-ROM 検索（3）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
10	CD-ROM 検索（4）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
11	CD-ROM 検索（5）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
12	CD-ROM 検索（6）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	学校図書館通論（前期集中授業）	担当者名	宮部 頼子
-----	-----------------	------	-------

講義の目標	わが国の学校図書館の現状を概観し、その諸活動に関する理解を深めるとともに、そこで指摘されている問題点を検討し、考えを深めることを目的とする。特に学校図書館と教科授業との関係に焦点を合わせ、実際に学校図書館の見学も行う。		
講義概要	わが国の学校図書館の現状を概観し、その諸活動に関する理解を深めるとともに、そこから浮かび上がってくる様々な問題点を検討する。学校図書館の設置と活動状況、経費、資料、社会的基盤、学校図書館法、司書教諭、学校司書、メディアセンターとしての学校図書館等について検討し、あわせて近隣の学校図書館見学を行い、評価分析を行う。		
使用教材	テキスト	なし（配布資料）	
	参考文献	授業時に紹介	
評価方法	見学レポート（2ヶ所） 授業への参加度		
受講者に対する要望など			

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	第一日目の授業では学校図書館の設置状況、活動状況、経費、資料の点などについて最近の資料を参照しながら検討を行い、学校図書館の現状に関する基礎的理解を深める。
2	第二日目は学校図書館の社会的基盤について、学校図書館法とその改正問題、社会と学校図書館などに焦点を当てて考える。午後からは近隣の小学校学校図書室の見学・調査を行う。
3	第三日目の授業では学校図書館職員の問題をとり上げ、司書教諭とは何か、学校司書の存在、学校図書館職員の職務などについて考える。午後からは近隣の中学校学校図書室の見学・調査を行う。
4	第四日目の授業では見学のまとめを行ったのち、メディアセンターとしての学校図書館をとり上げる。学校図書館をテーマにしたビデオを観賞し、それらを比較検討し、あわせて評価分析も行う。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	学校図書館の利用指導（後期集中授業）	担当者名	宮部 頼子
-----	--------------------	------	-------

講義の目標	<p>学校教育の課題のひとつである「学び方を学ぶ」に関して、その学校図書館における指導方法を習得することを目的とする。各種の事例を比較検討しながら指導計画の策定も行う。</p>	
講義概要	<p>学校教育の課題のひとつである「学び方を学ぶ」に関して、その学校図書館における指導方法を様々な角度から検討し、習得する。近隣の学校図書館を見学することを通して、現場における様々な問題点を理解し、それらを踏まえた上でグループ作業により利用指導計画案策定を試みる。少人数クラスの利点を生かした活発なディスカッション形式による授業展開を期待している。</p>	
使用教材	テキスト	なし（配布資料）
	参考文献	授業時に紹介
評価方法	<p>見学レポート（2ヶ所） 授業への参加度</p>	
受講者に対する要望など		



## 年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	第一日目の授業では利用指導の基礎的理解のために、利用指導の実施状況、実施内容、読書指導と利用指導の関係などについて検討する。
2	第二日目の授業では利用指導の体系理解のために各種資料を用いて検討する。午後からは近隣の小学校図書室を見学・調査する。
3	第三日目の授業では教科授業と利用指導に関して、両者の関係を検討する。午後からは近隣の中学校図書室の見学・調査を行い、利用指導の観点から検討する。
4	第四日目の授業ではこれ迄に学んだことを基に利用指導の実際について各自の考えをまとめる。又、ビデオ観賞を行いそれらの評価分析を行う。更にグループ作業により、実際に利用指導案策定を行い、相互評価を試みる。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	